

飼料増産重点地区の取組状況

都道府 県名	市町村名 (取組場所)	実施者	17年度(実績)	18年度				19年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評 価 ・ 課 題	今後の対応		
北海道	八雲町	八雲TMRセ ンター	畜産担い手育成総合整 備事業(再編整備型)に より施設を整備。平成 18年3月完成。	1番草からサイレージ調 製を開始し、良質なTMR を安定的に供給(18t /日)する。	1番草からサイレージ調 製を開始し、良質なTMR を安定的に供給(18t /日)する。	18年3月からTMRの供 給を開始(18t/日)	施設の整備を終え、計 画どおりのTMRの供給 が行われた。	良質粗飼料を確保する ため、計画的に草地更 新を進め、高品質なTMR を安定供給する。	年間を通じ 良質なTMR を安定的に 供給(18t/ 日)
	俱知安町、 黒松内町ほか	ようてい農 協	草地整備面積58.3ha (基本型51, 公社型7.3)	草地畜産生産性向上対 策事業による草地整備 59.7ha(うち基本型44.9、 公社型14.8)	草地整備面積47.66ha (基本型38.66, 公社型 9.0)	概ね計画どおりの草地 整備を実施	生産性等追跡調査の実 施	引き続き補助事業等を 活用して、計画的な草 地整備を実施	
	長沼町	長沼農協	飼料用稲わらの供給量 215t(4集団)	5集団と個人により、12 0haで432tの飼料用稲 わらの供給を計画。	飼料用稲わらの供給量 395t(2集団、個人)	天候不順等により計画 量を下回ったが、概ね 計画どおりの供給が行 われた	安定的取引に向け、良 質な飼料用稲わらの生 産を継続する	引き続き、飼料用稲わ らの地域への安定供給 に努める(120ha、400t)	
	深川市、雨 竜町、北竜 町	きたそらち 農協	草地整備面積118ha(基 本型)	草地畜産生産性向上対 策事業(基本型)による 草地整備109.5ha	草地整備面積116.6ha (基本型)	概ね計画どおりの草地 整備を実施。	生産性等調査のとりま とめ。	引き続き補助事業等を 活用し、計画的な草地 整備を実施する	
	下川町	下川町	17年8月からTMRの供 給を開始(38t/日)	畜産担い手育成総合整 備事業による草地整備 により、より良質な自給 飼料を生産し、良質なT MRを供給する。	良質自給飼料を主とし た飼料設計により、個 体は健康で乳量増の結 果を得た。	生産調整値はTMR供 給以前の数値が基準で あったため、乳量の増 加はあったが飼養(給 餌)頭数が激減(対前年 比20%)したため、収支 は会社及び個々の農家 とも計画を下回る。	生産調整期間は同様で あり、経費の節減はも とよりコーンの外販等 により経営の改善を図る。	引き続き良質TMRコー ンの外販すると共に、 哺育・育成センター設立 に向け検討する。	
	愛別町	愛別町稲発 酵粗飼料生 産組合	WCSの作付面積8.4ha、 供給143.7t	WCSの作付面積 28.9ha(対前年比244% 増)を計画。	WCSの作付面積 24.2ha、供給量331.2ト ン	概ね計画どおりの生 産・供給が行われた。	引き続き、良質なWCS 安定供給。	町内肥育農家へのWC Sの安定供給(作付面 積25ha、供給量330t)	
	猿払村、浜 頓別町	東宗谷農協	・宗谷管内初のTMRセ ンター(猿払村)が、平成17 年8月よりTMR供給開 始。(42t/日) ・この他3箇所のTMRセ ンター設置構想を検討。 ・公共牧場(浜頓別町) の乳牛哺育育成施設を 平成19年度以降に設置 するべく関係機関と協 議。	・草地整備時の播種する 品種の選定 ・草地マップの作成を進 める。(農協・ホクレン) ・大型機械のオペレータ 養成を農協と分担し進め る。 ・TMR移行時期の粗飼 料確保量の検討と、給与 体系の検討 ・東宗谷農協TMR連絡 協議会の設置により、料 金体系等の検討 ・公共牧場との連携を行 政と農協及び受益者と 協議し、コントラ・育成預 託の方向性を見出す。	・TMRの供給(40t/日) ・新規浜頓別地区2ヶ所 のTMRセンターの圃場 マップ整備 ・公共牧場(農協)から TMRセンター1箇所の オペレータ支援協議 ・サイレージ調整時の備 車を地元企業に依頼 ・公共牧場育成預託牛 舎2棟・200頭収容可 能設置(合計400頭規 模)	・H19春からの作業体系 について、農協・TMRセ ンター1箇所と冬季間中 に協議を行う。 ・サイレージ調整時の踏 込み作業等の業者との 勉強会の開催 ・公共牧場の草地管理 について、TMRセンター と協議 ・構成員の今後の分業 化に対する、経営方針 の確立	・作業人員の確保と料 金体系の整備 ・備車運転手の勉強会 の開催 ・春からの作業体系、人 員確保の協議 ・供給製品のメニューの 検討 ・ふん尿の草地還元作 業の作業体系の検討	年間を通じ良質なTMR を安定的に供給(159t/ 日)(40t・85t・34t) ・公共牧場哺育育成セ ンター設立計画の検討 (H19.2)完成予定 ・粗飼料調整作業の連 携(TMRセンター・公共 牧場) ・コントラクターとしての 料金・連携体制の設定 協議(検討委員会設置)	

都道府 県名	市町村名 (取組場所)	実施者	17年度(実績)	18年度				19年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評価・課題	今後の対応		
	紋別市	オホーツク はまなす農 協	自走式飼料収穫用機械 等の導入 収穫面積413.3ha(1番 草190.8ha、2番草 153ha、テントコーン69.5ha)	地域の要望に対応し、 受託作業面積の拡大 (デントコーン3ha増、牧 草10ha増を)計画。	収穫面積355.7ha(1番 草175.3ha、2番草 104.2ha、テントコー ン76.2ha)	1番草は自力更新及び コーン移行により15.5ha 減。2番草は降雨により 大型機械作業が困難と なったため48.8ha減。テ ントコーンは草地からの移 行及び員外利用増によ る6.7ha増。	特になし	共同作業組織による良 質飼料の安定的生産を 図る	
	上湧別町	えんゆう農 協	飼料収穫調整用機械の 導入(作業延面積 600ha) 農協運営のコントラ クターによる牧草収穫延 面積2,037ha	受託面積の安定と良質 粗飼料の安定を図るた め、作業体系の見直し を予定(運送業者による 大型タンク運搬)。牧草 収穫延面積2,030ha	農協運営のコントラク ターによる牧草収穫延 面積2,624ha	牧草収穫委託農家が増 えたことにより面積増と なった。 組織の機能・能力増強 が課題である。	特になし	コントラクターによる良 質粗飼料の安定的生 産。牧草収穫延面積 2,600Ha	
	浦河町	荻伏稲わら 生産組合	飼料用稲わらの供給 (115t)	飼料用稲わらの安定供 給	飼料用稲わらの供給 (123t)	今後も、安定的な供給 を継続	次年度の安定的な供給 に向けた会議等の開催	安定的な供給を継続 (120t)	
	新得町	新得町・新 得町農協	17年8月からTMRの供 給を開始(50t/日)。	4月下旬に土壌分析を 実施し、不足栄養素の 補充・適期の肥培管理 を行い、良質な粗飼料 生産を図る。また、良質 な粗飼料の生産及び収 量確保を行うため更新 期を向かえた圃場 A=57.8haについて、道 営事業により草地更新 を予定。	TMRの供給(45t/日)	飼料生産基盤の効率的 利用と適正管理、飼料 作成作業の労働力軽 減、生産調整に伴う給 与頭数の減	コントラ部門との連携強 化により、適切な圃場 管理と収穫を実施し、良 質かつ安定した粗飼料 の生産・供給を目指す。	年間を通じ良質なTMR を安定的に供給(45t/ 日)、適切な圃場管理 のもと安定した粗飼料 の生産と供給を目指 す。	
	忠類村	忠類農協	コントラ運営協議会の 設立と、収穫作業等の 実施。 収穫作業延べ面積 1,572ha 散布作業延べ面積 146h。	収穫作業 2,018ha 散布作業 30件 46回	収穫作業 2,025ha 散布作業 34件 63回	労働時間の緩和が図ら れ、飼養管理に専念す ることが出来た。 粗飼料品質の向上と均 一化が図られた。	飼養管理の合理化や機 械投資に係るコスト低 減を図るためコントラク ター事業を推進する。	飼養管理の合理化や機 械投資に係るコスト低 減を図るためコントラク ター事業を推進する。	
	浜中町	浜中町農協	草地整備面積1,005ha 更新率7.4%(生産性向 上対策事業327ha、畜 産担い手育成総合整備 事業482ha、自力更新 (農協補助)196ha)	草地畜産生産性向上対 策事業、畜産担い手育 成総合整備事業(376ha 計画)を活用し、行動計 画に基づき、5~6%の 更新率を目標とする。	草地整備面積724ha更 新率5.3%(生産性向上 対策事業232ha、畜産 担い手育成総合整備事 業492ha)	計画どおりの草地整備 を実施	生産性等調査のとりま とめ	引き続き補助事業等を 活用して計画的な草地 整備(簡易更新含む)を 実施	

都道府 県名	市町村名 (取組場所)	実施者	17年度(実績)	18年度				19年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評 価 ・ 課 題	今後の対応		
	別海町	別海農協	草地整備面積 担い支援 136.21ha 再編整備 641.62ha 合 計 777.83ha	18年度から新たに新規 地区を1地区立ち上 げ、畜産担い手育成総 合整備事業(再編整備 型)4地区により、計 画的に草地整備を実施 する。 草地整備面積 1,074.00ha	草地整備面積 再編整備 981.57ha 合 計 981.57ha	計画どおりの草地整備 を実施。	計画的な草地整備の実 施による自給率の向上 と高生産性草地への転 換を図る。	引き続き補助事業等を 活用して、計画的な草 地整備を実施。 19年度整備面積 800.92ha	
	美瑛町	美瑛町	酪農家10戸でTMRセン ター「(有)ジェネシス美 瑛」を設立。導入機械及 び施設整備内容を検 討。	TMRセンター施設の整 備を行うとともに、平成 19年度からの良質粗 飼料の確保による高品 質TMRの安定供給の ため、草地の整備改良 を実施。	平成18年8月からTMR の供給を開始(40t/日)	概ね計画どおり草地整 備を実施。平成19年度 TMR供給開始に向け ての整備が進められ た。	平成19年8月からの本 格稼働に向け、運営・ 稼働計画などの詳細部 を関係者で協議。	年間を通じ良質なTMR を安定的に供給する (55.2t/日)	H17登録
	湧別町	(有)アグリサ ポートばろ う	TMRセンターの設立に 向け整備内容等の検討 会開催(5回)。運営主 体の法人化(12月)	TMRセンター施設の整 備を行うとともに、平成 19年度からの良質粗飼 料の確保による高品質 TMRの安定供給のた め、草地の整備改良を 実施。	平成18年8月からT M Rの供給を開始(43.5t/ 日) ・計画 に基づく草地更新の実 施(50ha)	生乳生産調整の影響で TMR供給量は計画を 下回ったが、概ね計画 通りTMRの供給、草地 更新を実施。	購入資材・飼料の価格 が上昇傾向にあるた め、コスト低減に向け粗 飼料自給率を高めるた めの作付・利用計画を 検討。	年間を通じ良質なTMR を安定的に供給 (50t/日) ・良質粗飼料確保に向 けた草地更新の実施	H17登録
	新十津川町	新十津川町	利用が低迷していた3 つの牧場を統廃合した 牧場の整備を17年度 に完了。総面積95ha、 うち牧草地56ha。	全牧区(14ha×4牧区) のうち、第1、第2牧区 を開設し、黒毛和種を 中心とした放牧利用を 開始するとともに、優良 牧草定着のための肥料 散布、掃除刈の実施。 第3、第4牧区は次年度 に開設する。	第1・2牧区放牧。 第3・4牧区肥料散布及 び掃除刈を実施。	計画どおり草地の整備 を実施。	草地の育成状況を考慮 し、第1・第2牧区と第 3・第4牧区をそれぞれ 放牧区または採草地と して割り当てる。	平成18年度の牧草成 育状況から、引き続き 第1・2牧区を放牧地と し、第3・4牧区は肥料 散布及び掃除刈りを行 う予定。	H17登録
	稚内市	沼川農協	TMRセンターの施設整 備と運営検討会並びに 関係機関による技術指 導の実施	・安定的TMR供給のた めの研究協議と実証試 験の実施 ・作業機械の導入 ・18年8月、TMR供給 を開始(60t/日)	18年11月からTMRの 製造供給を開始する。 (21.5t/日)	計画どおり施設整備を 終え、TMR製造供給と なり1頭当たり乳量の増 加が見られる。	一部2番草サイレージの 外部販売の検討が必要 である。	年間を通じ良質なTMR を安定的に供給(25t/ 日)	H17登録

都道府 県名	市町村名 (取組場所)	実施者	17年度(実績)	18年度			19年度(計画)	備 考	
				計 画	実 績	評価・課題 今後の対応			
	更別村	有限会社ア グリサポ トさらべつ	コントラ組織の設立、飼 料収穫調製用機械等の 導入、作業受託開始。 受託面積延べ535ha	新規にデントコーン播 種作業を実施。トラク ター2台、スカベン ジャー2台を新たにリ ース導入し作業性の向上 と機械類の更新を図 る。受託作業計画として 播種作業面積60ha(対 前年比366%)、粗飼料 収穫作業535ha(対前 年比107%)、散布作業 1759ha(対前年比 104%)を計画。	計画していた機械類を 導入。播種作業面積と して草地更新39ha、 コーン播種59ha計98ha (計画対比163%)、粗 飼料収穫作業647ha(計 画対比120%)、散布作 業1748ha(計画対比 99%)の実績であった。	関係機関等の支援も含 め機械等の導入が図 れ、作業面積的にも計 画以上の実績を作れた 事は評価に値する。課 題としては現在未利用 の組合員の利用推進、 また、機械更新時の資 金積立、冬場の作業量 確保をいかにしてい かが今後の当社の課題と 考える。	飼料作物収穫を自力で 行なっている場合とコン トラクターに委託する場 合の試算表等の資料作 成を行っていきたい。	現在計画中	H17登録
	陸別町	陸別町農 協、陸別町 コントラ クター利用組 合ほか	飼料収穫調製用機械等 の導入、作業受託開 始。受託面積延べ 676ha。	陸別町コントラクター利 用組合の受託面積の拡 大を図るため1月に運 営協議会を開催。受託 面積延べ725haを計画。	昨年度に引き続き構成 員の作業を受託。受託 面積延べ654ha。	昨年度と同様、構成員 の飼料調整作業に係る 時間・労力を軽減するこ とにより、飼養管理の向 上が図られた。	良質粗飼料の安定的生 産により、引き続き構成 員の飼料調整作業の軽 減を図る。	陸別町コントラクター利 用組合の受託面積の拡 大を図るため、1月に運 営協議会を開催。新規 機械の導入を計画。	H17登録
	足寄町	足寄町	草地林地の一体的整 備、牧道整備、放牧酪 農牛乳製品化試験、放 牧酪農ネットワーク交流 会の開催	草地畜産生産性向上対 策事業及び自然循環型 畜産推進事業を新たに 導入し、放牧の基盤と なる水道・牧道の整備 を行い、飼料自給率の 向上を図る	草地更新150ha、草地 整備274ha、牧柵整備 6,000m、牧道整備 1,100m、放牧酪農 ネットワーク交流会の開 催	コストの軽減を図り、助 成(補助)金に頼らない 生産利用体制の構築	放牧の基盤となる土・草 作り及び隔障物整備を 進めコストの軽減を図 る。	草地更新の継続、放牧 酪農ネットワーク交流会 の開催	H17登録
	広尾町	酪農家集 団、機械利 用組合等	17年7月からTMRの供 給を開始(18.8t/日(5 戸))	・TMRの安定供給。 ・広尾町農政推進協議 会において、総合 的な分業化システム の確立に向けての 協議の継続。 ・生産者を中心とした分 業化システム検 討会の実施。	・TMRの供給 成牛14.5t/日 育成 4.7t/日	・収穫効率、品質、反 収とも向上している ・粗飼料の貯蔵ロスが 少なくなったことにより、 粗飼料在庫が増加傾向 にある ・思うほどコストが下 がらない	・ルーサン乾草の購入 を取りやめ、ルーサンを 混播した草地の整備に よりタンパク源の確保に 努める ・土壌分析をし、肥培管 理に努める	・年間を通じ良質なTMR を安定的に供給(20t/ 日) ・各機械利用組合相互 の連携	H17登録
	大樹町	大樹町膿瘍	コントラクターの利用延 べ日数409日、草地整 備332ha、飼料調製貯 蔵施設整備、ゆとり農 業推進会議の開催など	コントラクターの利用延 べ日数400日、草地整 備400ha、土壌診断等 に基づく草地の肥培管 理、飼料調製貯蔵施設 整備、ゆとり農業推進 会議の開催など	コントラクターの利用延 べ日数382日、草地整 備305ha、土壌診断等 に基づく草地の肥培管 理、飼料調製貯蔵施設 整備、ゆとり農業推進 会議の開催など	概ね計画どおり進行中 であり、このことにより 作業効率と飼料の品質 向上が図られた。コント ラクター事業の充実が 必要。	草地生産性向上のため の飼料増産運動の展開	コントラクターの利用延 べ日数400日、草地造 成整備273ha、土壌診 断等に基づく草地の肥 培管理、ゆとり農業推 進会議の開催など	H17登録

都道府 県名	市町村名 (取組場所)	実施者	17年度(実績)	18年度				19年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評 価 ・ 課 題	今後の対応		
	由仁町	由仁町農業協同組合(仮)	-	-	-	-	-	草地整備 15ha 稲わら収集 30トン	H18登録
	苫前町	農事組合法人アグリランド	-	元気な地域づくり事業によりTMRセンター、飼料収穫機械を整備。	TMRセンターを整備し、平成18年8月からTMRの供給を開始	計画どおりに施設等の整備が完了し、TMRの供給を実施	粗飼料生産調製技術の向上	年間を通じ良質なTMRを安定的に供給(26t/日)	H18登録
	北見市	北見市・きたみらい農業協同組合	-	畜産公共事業による計画的な地整備3ha	草地整備面積3ha、家畜糞尿処理施設の整備	当初の計画どおり進捗、家畜ふん尿施設整備を当初に実施	計画的な草地整備を予定	畜産公共事業による草地整備78ha	H18登録
	釧路市	阿寒農業協同組合	-	地域関係機関で構成する委員会でのTMRセンター設立に向けた協議、実施計画の策定	実施計画の策定			TMRセンターの施設を整備し、19年10月からTMRの供給を開始	H18登録
青森県	横浜町、七戸町	七戸畜産農業協同組合	資源循環型の生産方式による短角牛肉生産、現地研修会の開催	販売戦略の強化 コスト分析	こだわり牛肉のPR 無農薬トウモロコシの安定生産技術の向上	有機牛肉に対する消費者の理解度が低く、有利販売には至っていない。 生産頭数が少なく、定期定量販売が困難である。	安全性の強調とPR方法の工夫 無農薬・無化学肥料栽培技術の確立	細断型ロールペーラの活用によるトウモロコシサイレージ周年給与体制の強化を図る。	
	横浜町	粗飼料生産集団、町営田の沢牧場他	-	公共牧場有効利用 草地管理の徹底	公共牧場利用者の意見 集約と対応	公共牧場は牧養力を確認し、計画的な放牧管理が必要である。	公共事業による草地整備等を踏まえた利用計画を検討する。	公共事業実施後の管理、利用計画を利用者に周知し、牧場経営の安定化を図る。	H17登録
	六ヶ所村、東北町等	らくのう青森農業協同組合、北栄トラクター利用組合	TMRセンター設置、トウモロコシ面積40ha増加	完全国産粗飼料によるTMR調製 TMR給与技術の指導	トウモロコシ栽培面積120ha	計画どおりトウモロコシ面積の拡大が図られた。 しかし、コガネムシ被害で翌年度の草量確保が課題となっている。	草地更新を計画的に進め、不足飼料の確保を図るための検討を行う。	草量確保のために、エン麦による1番草量補完などを検討するとともに、計画的な草地更新、トウモロコシ面積の拡大を図る。	
	十和田市	千里平放牧組合	水田放牧1.6ha 繁殖牛80頭 水田を活用した粗飼料確保対策	放牧地と水田放牧を組み合わせ、引き続き粗飼料自給率向上に取り組む。	水田放牧1.6ha 繁殖牛80頭 水田を活用した粗飼料確保対策	草地生産性が低下している。	計画的な草地更新を進める。	計画的な草地更新を進める。	
	十和田市、三沢市等	上北郡内関係市町村水田振興協議会	稲WCS55.6ha 水田放牧3.4ha 現地研修会の開催	当該地区をモデルとして他地区に波及させる。	現地検討会等により他地域の畜産農家に水田放牧を紹介できた。	具体的な他地域の新規取組については、今ひとつ進んでいない。	他地域における新規取組について、補助事業等の活用を検討する。	県単事業と連動した実証展示ほの設置を図り、水田放牧技術の普及に努める。	
	今別町	今別町和牛飼育組合	-	水田放牧の取り組み0.7ha	水田放牧の取り組み0.7ha	取組開始年のため、前植生の処理を行った。	新たに水田の草地更新を行い、水田放牧を実施する。	水田放牧の実施(展示ほとして設置)	H18登録

都道府 県名	市町村名 (取組場所)	実施者	17年度(実績)	18年度				19年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評 価 ・ 課 題	今後の対応		
岩手県	葛巻町	(社)葛巻町畜産開発公社	・体験交流受入数 H17.12末:18,000人 (修学旅行・総合学習含) ・H17.8から木質バイオガス稼働 ・葛巻高原まつり: 31,000人、スノーワンダーランド:20人)	・体験交流受入数 18,000人 ・体験メニューの拡大 (1泊コースの新設等)	・体験交流受入人数 18,900人 ・体験メニューの拡大については石釜によるピザ作り、草木染め他増加した ・補助事業活用により施設整備(隔柵、トイレ)	・これまでの取り組みが評価され、H17年度の畜産大賞を受賞 ・体験交流受入人数や体験メニューの拡大は計画以上の実績を上げた	・今後も体験受入人数の増加や体験メニューの拡大を図る ・1泊コースの家族体験を拡大する	・体験交流受入数 20,000人 ・家族体験1泊コースの拡充	
	西根町・松尾村	(農)岩手山麓デリーサポート	・バンカーサイロ、TMR圧縮梱包機等の整備(H18.2完了予定) ・役員の担当部門の設定等組織の体制整備 ・作付計画の策定	・作付け、TMR製造開始 牧草地 119.6ha 飼料用とうもろこし 23.5ha	飼料作付 牧草地 151.1ha 飼料用とうもろこし 29.0ha TMR供給4356t	TMR供給によって乳量の増加。 課 題 飼料作物肥培管理作業について(効率的な作付場所と品種選定と熊対策等)	飼料用とうもろこし作付面積拡大 TMR供給量の拡大	飼料作付 牧草地 142.1ha 飼料用とうもろこし 38.0ha TMR供給 7069t	
	滝沢村	(社)岩手県農業公社	・ラップサイレージ供給 作業請負面積 10ha (前年比20倍)	・ラップサイレージ供給 作業請負面積 10ha	・ラップサイレージ供給 作業請負面積 10ha (前年比1.0倍)	・機械の能力からみて20haは作業可能である。 ・請負面積を増やす必要がある。	・利用農家の拡大を図るため、PRを行うとともに需要農家を把握する。	・県内全域においてラップサイレージ供給作業請負面積 20ha	H16からH17において県内、他の5市町村でも同様に実施した。
	金ヶ崎町	金ヶ崎町効率的飼料生産組合	-	-	-	-	-	・現地検討会開催 ・飼料作物作付面積 110ha	H18登録
宮城県	宮城県内全域	社団法人宮城県農業公社	細断型ロールペーラーによる飼料用とうもろこし収穫調製実証展示	細断型ロールペーラー利用促進のためのPR活動。	11月1日に細断型ロールペーラーによる収穫実演会を実施。	参集者には、作業の効率化、品質確保等についてPRが出来た。但し、とうもろこしの作付け面積等が減少傾向にあり、作業受託面積が伸び悩んでいる。(18年6.45ha)	細断型ロールペーラーの利用促進。	細断型ロールペーラー利用促進のためのPR活動。	
	宮城県内全域	社団法人宮城県農業公社、大衡転作受託組合	イネ・麦WCS収穫調製実証展示 飼料用イネホルク ラップサイレージの収穫調製受託面積は農業公社で約90ha、大衡転作受託組合は約30haである。	飼料用稲の実証展示ほの設置と検討会の開催。	飼料用稲の実証展示の設置を推進したが、播種した4品種とも発芽不良のため、設置出来なかった。	発芽不良により、栽培・生産面で影響が出たので、展示ほの設置は当面見合わせる。 作業受託面積は、公社が103haと前年より15ha増加している。大衡は30ha前年同である。	公社、大衡とも稼働率は高い状況となっている。当面は、効率的な収穫調整の工夫などが必要。	省力生産技術の推進、啓発活動	
	宮城県登米市南方	宮城県南方地域肉用繁殖雌牛生産・拡大・再興戦略会議	水田放牧の実施に向けた検討 飼養頭数に見合った粗飼料基盤の確保の農家への意識付け	稲WCSの普及と飼料用稲の実証栽培 情報提供と情報収集	たい肥投入量別の稲WCSの実証栽培	堆肥センターのたい肥を有効に活用するなど資源循環の推進が図られた。	水田を活用した飼料作物生産の推進	水田を活用した飼料作物生産の推進(団地化、稲発酵粗飼料生産の推進)	

都道府県名	市町村名(取組場所)	実施者	17年度(実績)	18年度				19年度(計画)	備考
				計画	実績	評価・課題	今後の対応		
	宮城県栗原市	肉用牛集団農家等		簡易電気牧柵を活用した放牧の推進	6月14日現地検討会。随時、現地指導、巡回の実施。	放牧地面積が7.7haと約5ha増加し、普及啓蒙が図られてきている。	放牧の推進に向けた啓発活動と現地指導の実施。	放牧の推進に向けた啓発活動と現地指導の実施。	H18登録
秋田県	北秋田市(森吉地区)	酪農家、JA	細断型ロールペーラ導入に向けた現地検討会を開催	トモロコシサイレージの省力生産を視野に入れた組織化の推進	補助事業実施に向けた検討を実施	作業機械の老朽化や面積不足等により、現状では組織化に向けた体制が不十分である。	補助事業実施に向けた検討を実施	補助事業実施に向けた検討を実施	
	北秋田市	北秋田市	-	-	-	-	-	草地林地一体的利用総合整備事業の計画策定を実施	H18登録
	美郷町	酪農家	細断型ロールペーラ導入に向けた現地検討会を開催	細断型ロールペーラ(1台)導入	生産組織の設立および運営	地域における自給飼料増産に対する気運が高まっている。	生産組織への指導助言等継続支援	継続実施	
	秋田市	雄和町飼料増産推進組合、肉用牛飼養農家	イネWCS作付面積実績:35.2ha	イネWCS作付面積計画:30ha 耕畜連携基盤整備実験事業の継続実施(~H18)	イネWCS作付面積計画:31ha	耕畜連携基盤整備実験事業との連携により、家畜ふん堆肥の有効利用が図られた。	耕畜連携基盤整備実験事業の実績とりまとめ(今年度事業終了)	引き続き耕畜連携による飼料生産体制の定着化を図る。	
	羽後町	酪農家、肉用牛飼養農家		事業計画の策定	草地林地一体的利用総合整備事業の計画策定を実施	事業実施を契機にイネWCS生産組織立ち上げを検討中。事業実施者の確保・調整が必要。	イネWCS生産組織立ち上げに向け、JAを中心とした活動を強化する。	事業参加者を確定した上でハード事業の着手を開始する。	H17登録
山形県	朝日町	朝日町	・飼料増産に係る打合せ 2回 ・朝日町土づくり協議会開催 1回 ・畜産農家巡回調査(堆肥処理、稲わら収集状況) 2回 ・稲わら収集作業に係る他地域の取組事例紹介 ・堆肥センターを核とした耕畜連携の実践(堆肥散布面積80ha、モミガラ86t)	・打合せ会の実施 ・土づくり協議会の開催 ・コントラクター組織の育成 ・堆肥センター利用者の拡大	3回開催 1回開催 1組織設立 普及啓発の実施	コントラクター組織が設立に伴い、堆肥散布作業等が推進され、耕畜連携の推進に寄与している。	・コントラクター組織において、堆肥散布作業の他に、稲わら収集等の作業メニューを考えていく。	・協議会等の継続実施 ・コントラクター組織の強化	
	真室川町	真室川町コントラクター組合	-	・推進会議の開催 ・実績検討会の開催 ・WCS収穫受託面積 14ha ・稲わら収集面積 3ha	2回開催 3月開催予定 14ha収穫 3ha収集		作業受託面積が増加してきた。	実績検討会等において、受託面積の増加が可能かを検討していく。	・推進会議等の継続実施 ・受託面積・メニューの増加

都道府 県名	市町村名 (取組場所)	実施者	17年度(実績)	18年度				19年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評 価 ・ 課 題	今後の対応		
	山形市、上山市、米沢市他	山形県酪農業協同組合	-	-	-	-	-	・課題検討委員会の開催 ・自給飼料関連新技術研修会の開催 ・とうもろこし栽培実習の実施	H18登録
福島県	阿武隈南部地域	菅農集団等	高位生産性草地への転換 10ha	草地更新、遊休農地の解消、飼料用とうもろこし作付拡大、コントラクターの育成を図る。	9/11簡易草地更新機を用いた草地更新手法の実演会の開催。遊休農地の解消約10ha(県単事業)	重点地区内畜産農家に対し技術支援等が実施され、飼料増産に向けた啓発がなされた。	引き続き、自給飼料作付拡大に向け、関係機関等による現地指導を実施する。	草地更新、遊休農地の解消、飼料用とうもろこし作付拡大、コントラクターの育成を図る。	
	大玉村	大玉わら部会	-	-	-	-	-	短期間で畜産農家へ良質な稲わらを確保・供給し、受益面積を拡大する。(H20年度60ha)	H18登録
	西郷村	雪割牧場有限公司	-	-	-	-	-	自給飼料収穫作業に係る作業受託を実施し、実施者における自給飼料作付面積を拡大する。(H20年度 48.8ha)	H18登録
茨城県	美野里町	美野里町酪農推進プロジェクトチーム	美野里酪農協におけるコントラクター機能強化を図るため、マニュアルプレッダ-の導入、デモ散布活動による普及啓発活動の実施。	マニュアルプレッダ-を活用した堆肥還元活動の拡大。	本年度12月から稼働し、耕種農家のほ場も含め、堆肥散布活動を本格的に開始。	地域の農家の間で口コミで広がって、需要は拡大しつつある。	新聞折り込み等による地域への広報活動等による散布活動の拡大に向けた取組を実施。	18年度に比べて取組面積の拡大を図る。	
	日立市 高萩市 北茨城市	JA茨城ひたち繁殖牛部会		県単事業を活用して放牧面積の拡大を図る。	これまで、3.1haだった耕作放棄地面積が4.3haにまで拡大。	肉用牛研究所と普及センターによる綿密な支援指導により失敗もなく、耕作放棄地放牧のメリットが実感されている。	2月に農家研修会を開催して、さらなる取組拡大を推進する。	平成22年度に10haを目標として取組を拡大する。	
	大子町	大子町和牛繁殖経営活性化協議会		県単事業を活用して放牧面積の拡大を図る。	これまで16.9haだった耕作放棄地放牧面積が24.5haにまで拡大。	繁殖雌牛の増頭と併せた放牧の取組を実施している。	来年度の放牧面積拡大に向けた協議会の実施。	地域における参画農家の拡大を図るとともに、周年放牧に関する技術の検討も行う。	H18登録
栃木県	芳賀町	芳賀町飼料稲生産組合	稲発酵粗飼料の作付15.5ha	稲発酵粗飼料の作付21.4ha	稲発酵粗飼料の作付19.8ha	新品種(リーフスター)の導入により、収量が比較的高かった。低コスト生産が課題。	引き続き専用品種を導入することにより、高収量を確保する。また、低コスト生産の方法も検討する。	稲発酵粗飼料の作付22ha以上を目指す。	

都道府 県名	市町村名 (取組場所)	実施者	17年度(実績)	18年度				19年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評 価 ・ 課 題	今後の対応		
	市貝町	(有)JETア グリサポート	とうもろこしの作付 20ha	飼料作物40ha、稲わら 4haの飼料供給	とうもろこしの作付 38ha イタリアンの作付 5.3ha	作付拡大が図れた。コ ントラクターとしては作 業効率により受託先が まだ制限されている。	新たな取組として、地域 の水田で稲WCS生産も 検討している。	とうもろこしの作付 50ha以上を目指す。	
	さくら市 (旧氏家町)	卵の花飼料 稲生産組合	稲発酵粗飼料の作付 22ha	稲発酵粗飼料の作付 25ha	稲発酵粗飼料の作付 17.2ha	計画より面積は少なく なってしまったが、収量 に関しては概ね例年通 りであった。	引き続き作付拡大を目 指し、新規利用者を増 やすため、水田協議会 等を通して周知してい く。	稲発酵粗飼料の作付 25ha以上を目指す。	
	那須塩原市	SMK組合	とうもろこしの作付 8ha	とうもろこしの作付 9ha	とうもろこしの作付 14.9ha	・細断型ロールペーラの 導入により作業等の効 率化が図られ、計画に 比べ作付け拡大ができた。 ・さらなる単収向上を図 る必要がある。	細断型ロールペーラに よる作業の効率化を行 うとともに、奨励品種の 導入、適期作業、適正 な肥培管理等を徹底 し、安定的な生産体制 の確保に努める。	とうもろこしの作付 15ha以上を目指す。	H17登録
	矢板市	矢板WCS生 産組合	稲発酵粗飼料の作付 2.3ha	稲発酵粗飼料の作付 7ha	稲発酵粗飼料の作付 12.5ha	収穫機械の導入により 効率のかつ面積拡大が 図られた。	作付け拡大を目指し休 耕田の有効活用を図 る。	稲発酵粗飼料の作付 15ha以上を目指す。	H17登録
	市貝町	O.M.Kフー ダープロダ クション	とうもろこしの作付 43.5ha	とうもろこしの作付 46.5ha	とうもろこしの作付 32ha イタリアンの作付 8ha エンバクの作付5ha	悪天候によりとうもろこ しの面積・収量ともに減 少したが、エンバクの作 付で不足分は対応でき た。	飼料自給率向上を目指 すためには、とうもろこ しだけではなく、牧草も 生産拡大していく。	とうもろこしの作付50ha 以上を目指す。	H18登録
	鹿沼市	(有)農業生 産法人かぬ ま		稲発酵粗飼料の作付 5ha	稲発酵粗飼料の作付 5.24ha 予乾後反収 1900kg/10a 供給先 5戸	予乾により、ロールペー ラ製の品質が向上 反収の向上と利用農家 の拡大が課題	新規利用者に対する給 与指導の実施と利用拡 大の推進 新品種導入の検討	稲発酵粗飼料の作付 8ha以上、供給先8戸を 目指す。	H18登録
	足利市、佐 野市	足利市南部 地域(久 野、筑波、 御厨)、佐 野市南部		稲発酵粗飼料の作付 5ha	稲発酵粗飼料の作付 5ha	畜産農家を中心となり 取組、飼料としての有 用性を確認できた。 今後は耕種農家を巻き 込んでいくことが課題。	地域の中で、小麦を作 付けしなかった農家を 中心に推進を図り、栽 培管理＝耕種農家、収 穫調整＝畜産農家の役 割分担のもと、取組拡 大を目指していく。	稲発酵粗飼料の作付 10ha以上を目指す。	H18登録
	那須町	農業生産法 人 那須の農		・組織化のための検討 会、実証調査、モデル 事業(県単)実施 ・コントラクター設立	・検討会開催(4回)、実 証調査(WCS、たい肥 等)、モデル事業開始 ・法人設立(3月予定)	・検討会等を通じ組織 化に向けた課題等の整 理ができた。 ・飼料(WCS、稲わら等) やたい肥の生産流通コ スト低減が課題	・生産流通コスト低減の ための、生産技術の向 上や生産流通用機械等 の整備に取り組む。	・コントラクターの実践 ・機械整備事業実施	H18登録

都道府 県名	市町村名 (取組場所)	実施者	17年度(実績)	18年度			19年度(計画)	備 考	
				計 画	実 績	評価・課題			今後の対応
	塩谷町	ふぁまず IMO		稲わら収集46.9ha	稲わら収集46.9ha	悪天候により、収量が低かった。作業時間の効率化を図ることが課題。	作付面積の拡大を図るとともに、単収の確保、利用農家の拡大を図る。	稲わら収集50ha以上を目指す。	H18登録
	那須烏山市、那珂川町	那須烏山市、那珂川町		水田・里山放牧2カ所	水田・里山放牧2カ所(0.7ha)	・放牧により遊休地の利活用を進める事ができた。	関係機関と連携して放牧可能な遊休地を確保し利活用を進めていく	水田・里山放牧6カ所	H18登録
	那須町	那須町共同 利用模範牧 場	ベコまつり来場者 3,000人	ベコまつり来場者 3,500人	ベコまつり来場者 3,000人	畜産農家等関係者の参加が少ないため、参加協力が課題。	町の補助金の一部カットの予定。 全体計画の見直しを進め、効率の良い開催を検討していく。	那須高原ベコまつりで那須和牛によるバーベキュー実施、牛乳の無償配布、なす和牛無料試食等実施し、参加人数の増加を図り、消費者の畜産物等の理解醸成を図る。	H18登録 那須高原ベコまつりは平成9年度から毎年実施。
	日光市	栃木県酪農 業協同組合 大笹牧場	預託放牧牛 279頭 酪農体験者数 7,043名 来場者数 約70万人	預託放牧牛 300頭 酪農体験者数 7,500名 来場者数 75万人	預託放牧牛 282頭 酪農体験者数 年度途中 来場者数 年度途中	預託放牧牛については酪農家と育成牛飼養頭数の減少により、計画に及ばなかった。来場者数については年度途中で確定しないが、道路事情が良くなり上昇傾向と推測する。	放牧牛の成績向上と頭数の確保に努める。 牧場体験の実施、広告宣伝等により、来場者の増加を図る。	預託放牧牛 300頭 酪農体験者数 8,000名 来場者数 80万人	H18登録
群馬県	下仁田町 (神津牧場)	(財)神津牧 場	・春、秋の牧場まつりでは牛乳の無料配布、乳搾り体験を実施。1000~2000名程度の参加があった。 ・宿泊型の牧場体験を県内親子、一般を対象に各2回開催。それぞれ数十名の出席。 ・大学、高校からの実習生や中学生の職場体験を受け入れた。 ・バターづくり、乳搾り体験を小中学校単位で実施。 ・地域の産業祭、農業祭で放牧牛の牛乳・牛肉の試食を実施。 ・森林関係の助成を受け、山の実園地を開設。	・各取組においてアンケート調査を実施。その結果を基に内容の充実を図る。 ・山の実園で生産された山の実と乳製品を組み合わせ、自然と調和した畜産のイメージを定着させる。	・消費者との連携について、春、秋の牧場まつり、種々の牧場体験等は例年どおり実施し、天候にも恵まれ例年以上の参加者があった。 ・バター作り体験、チーズ作り体験、乳搾り体験等を小学生から高校生を中心に、一般の参加者にも実施。1000名以上。 ・山の実園は今年はまだ結実しなかったため、自然の実を採取して加工品を試作り、アイス等の乳製品との適合性の目処をつけた。 ・放牧牛の牛乳・牛肉を前面に出したアピールを行い、好評を得たので商品化を図っている。	・牧場祭りははじめ一般の来場者は、本物に触れることを望んでおり、牛を間近に見る放牧牛の行列や仔牛とのふれあいはかなりのインパクトを与えている。また、バター作り体験などでは実用規模の製品が出来るようにしているため、体験結果を持ち帰ってさらに感動の輪を広げ、食育に大きく貢献している。 ・リピーターも多いことから、家畜との直接ふれあいを意識した新メニューなどを増やしていく必要がある。	・畜産理解の醸成のためには、糞尿の処理も含めた全体のプロセスを織り込んだ体験コースの設定が必要で、場所・施設の準備。	・牧場体験の新メニューの作成。 ・山の実と乳製品を組み合わせて森と牛との共生をねらった新しいコンセプトの提供。 ・ジャージー牛肉の新用途の開発。	

都道府 県名	市町村名 (取組場所)	実施者	17年度(実績)	18年度				19年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評 価 ・ 課 題	今 後 の 対 応		
	前橋市	(財)群馬県 農業公社	飼料作物収穫調製作 業受託を実施。 ・稲醗粗飼料43ha ・飼料用トウモロコシ 10ha ・作業現場において、機 械の操作を希望農家に 教えている。	飼料作物収穫調製作 業受託を実施。特に飼 料用トウモロコシの拡 大を図る。 収穫作業実演会を開 催し、畜産コントラ クターの普及推進を行う。	収穫調製作業受託 ・稲醗粗飼料52ha ・飼料用トウモロコシ23ha ・ソルゴー、大麦等8.7ha 収穫作業実演会は4 回開催。また、希望者 に対して機械操作講習 会を開催。	収穫調製作業受託は 順調に拡大。 畜産コントラクターは、 建設産業からの参入希 望がある。 作業機械の高価格が 障害となっている。	国庫補助事業で、収 穫調製機械を導入し、 参入希望者に対して リース等を行い、畜産コ ントラクターの育成を図 る。	収穫調製作業受託目 標、飼料用トウモロコシ30ha 畜産コントラクターの育成 を図る。 安中市の荒廃桑園を 借り上げて飼料畑に転 換し、畜産農家に貸し 付ける。	H17登録
埼玉県	狭山市	狭山粗飼料 生産組合	飼料作付面積8.8ha	飼料作付面積11ha	飼料作付面積10.5ha	機械導入により飼料収 穫の拡大が図られた。 今後の課題は農地の確 保である。	自給飼料の生産拡大・ 低コストを図るため細断 型ロールベラー主体 の作業体系を確立し、 酪農経営の安定を図る	飼料作付面積13.2ha	H18登録
	熊谷市(旧 妻沼町善が 島、古江 原)及び近 隣市町	善が島地区 水田営農組 合、古江原 地区転作協 議会、妻沼 町酪農振興 会	・作付面積:23.7ha(対 前年比101.7%) ・「はまさり」で、乾物収 量783kg~1,197kg /10a。平均937kg /10aであった。	有機センターを活用した 耕畜連携を推進し、ま た、単収の向上に取り 組むことにより稲発 酵粗飼料用稲の生産拡 大を図る。また、一部鉄 コーティングは種を試験導 入する。流通先の一部 変更を検討する。	・発酵粗飼料用稲作付 面積:20.5ha(対前年比 86.5%) ・「はまさり」で、乾物収 量964kg~1,059kg /10a。平均1024kg /10aであった。 ・鉄コーティングは種を2ha 善が島で実施した。	・今年度は、1つの集団 (ハツコ水田活性化協 議会)が作付けを中止 したため、作付面積が 減少した。 ・有機センターを活用し た耕畜連携を推進した 結果、単収の向上がみ られた。 ・鉄コーティングは種は予 想どおりであり、鳥害回 避できた。	来年度の作付につい て、関係機関等で協議 を行う。	引き続き、有機センター を活用した耕畜連携を 推進し、また、単収の向 上に取り組むことによ って稲発酵粗飼料用稲の 生産拡大を図る。鉄コー ティングは種を2ha善が島 で継続実施。	
	秩父市	蒔田地区自 給飼料生産 組合	蒔田地区における収穫 面積 トウモロコシ 0.7ha エン麦 0ha	H18年収穫面積 トウモロコシ 7.5ha エン麦 2ha	H18年収穫面積 トウモロコシ 7.5ha エン麦 4ha	鳥害で、トウモロコシ収 量が減少し、エン麦も苗 立ちが悪い。	トウモロコシは面積拡 大に対応。エン麦につ いてはトウモロコシの状 況により決定。	H19年収穫面積 トウモロコシ 9ha エン麦 1ha	H18登録
	東秩父村	埼玉県 (秩父高原 牧場)	・来場者数393千人 ・牧場管理道沿いにス イセンの球根を15,000 球移植 ・2.5haのポピー畑を整 備 ・桜 の苗木を1haに100本植 え付け	・来場者数40万人 ・牧場管理道沿いのス イセンの管理 ・ポピー畑を3haに拡大 ・桜の管理	・来場者数(集計中) ・牧場管理道沿いのス イセンの管理 ・3haのポピー畑を整備 ・桜の管理	・来場者数については 目標を下回るがその他 は目標を達成した。	地元関係団体との協働 によるイベントの開催な ど応援体制を整備す る。	・来場者数40万人 ・牧場管理道沿いのス イセンの管理 ・3haのポピー畑の管理 ・桜の管理	H18登録
	美里町	(有)みのり	コントラクターによる受 託面積 22.9ha (H16年比92%)	コントラクターによる受 託面積 25ha (H17年比100%)	コントラクターによる受 託面積 24ha (H17年比104.8%)	今年の収穫受託面積は 計画の96%であった。 収穫作業効率の向上を 目的に見直しを行う。	作付け水田の集積を検 討する。	コントラクターによる受 託面積 25ha (H18年比100%)	

都道府県名	市町村名(取組場所)	実施者	17年度(実績)	18年度				19年度(計画)	備考
				計画	実績	評価・課題	今後の対応		
千葉県	市原市	市原市肉牛生産組合	遊休農地1.6haで繁殖和牛5頭放牧	遊休農地1.6haで繁殖和牛5頭放牧 適切な放牧管理の実施	遊休農地1.6haで繁殖和牛5頭放牧	放牧面積1.6haでの放牧頭数は5頭が限界である。	周辺の遊休地での面積拡大を検討していく。	遊休農地1.6haで繁殖和牛5頭放牧 適切な放牧管理の実施	
	市原市	市原野草利用研究会	-	稲わら収集機械整備	稲わら収集面積 0ha	稲わら収集共同利用機械整備を計画したが、市町村の予算措置が遅れたため、収集時期以降の整備になった。	暗渠排水整備地区での収集を予定しており、毎年10haづつ拡大していく予定。	稲わら収集面積 10ha	H18登録
	成田市	下総町粗飼料生産組合	稲WCS 5ha えん麦 0ha 牧草 23ha とうもろこし 6ha	稲WCS 10ha えん麦 10ha 牧草 7ha とうもろこし 5ha	稲WCS 5ha えん麦 0ha 牧草 23ha とうもろこし 6ha	裏作でえん麦栽培を計画したが、水田条件や作業性(排水が悪く、播種時期が遅い)を考慮して作付けを見送る。	土地条件の良い牧草栽培を拡大し飼料の確保を図る。	稲WCS 10ha 牧草 20ha とうもろこし 5ha	
	香取市	千葉県三和酪農協	とうもろこし及び一部とうもろこし・ソルゴー混播 56.2ha	とうもろこし及び一部とうもろこし・ソルゴー混播 84.2ha	とうもろこし及び一部とうもろこし・ソルゴー混播 84.2ha	3地区の機械整備が終了し、地域全体での飼料増産が開始した。	それぞれの計画に応じた作付け面積拡大を指導していく。	とうもろこし及び一部とうもろこし・ソルゴー混播 102.2ha	
	旭市	農事組合法人 八万石	稲WCS 27.7ha 稲わら収集面積25ha	稲WCS40ha 稲わら収集面積30ha 麦わら収集面積30ha	稲WCS 34.1ha 稲わら収集面積34.5ha 麦わら収集面積0ha	天候不順及び稲作農家の食用米作付け意欲が強いことから目標を達成できなかった。	畜産農家のWCS需要が多く、地域単位での転作による作付け面積拡大を図るため、新規WCS作付者への説明会等を行っていく。	稲WCS 40ha 稲わら収集面積30ha 麦わら収集面積30ha	
	袖ヶ浦市	袖ヶ浦稲わら生産組合	稲WCS 2.3ha 稲わら収集面積40ha	稲WCS 2.3ha 稲わら収集面積50ha	稲WCS 2.3ha 稲わら収集面積35ha	天候不順のため、稲わら収集面積が計画を下回った。	天候に応じた収集体制(稲刈時期の調整)を検討。	稲WCS 2.3ha 稲わら収集面積50ha	H18登録
	神奈川県	相模原市(旧津久井町、相模湖町)	肉用繁殖雌牛導入による地域農業活性化事業推進協議会	黒毛和種繁殖雌牛12頭が、荒廃農地163aに放牧された。	「荒廃地対策」及び「肉牛の低コスト生産」など地域農業の活性化を図ることを目的として、荒廃農地での黒毛和種繁殖雌牛の放牧の定着をはかる	黒毛和種繁殖雌牛11頭が、荒廃農地180aに放牧された	放牧により野草の刈り取り及び獣害対策として効果が得られた。放牧地(荒廃農地)の確保や放牧後の農地の利用について今後の検討が必要とされる	事業実施農家の意見集約と来年度事業実施に向けた計画の作成	黒毛和種繁殖雌牛の放牧頭数を増加し、地域への定着をはかる。
伊勢原市		ブルーファイブ(営農集団)		営農集団における飼料作物作付け面積を16haに拡大(前年比123%)	営農集団における飼料作物作付け面積を16haに拡大(前年比123%)	トウモロコシ作付け面積の拡大がされた。飼料畑は、分散しており作業効率が悪い	作業効率の悪い土地の代替借地の検討。	県奨励品種導入を増やし、更なる生産向上を図る。	H18登録
山梨県	中央市(旧田富町)	農家集団(耕種農家及び畜産農家)、収穫は長坂ファーム組合	コントラクターによる受託面積(WCS) 1.34ha	コントラクターによる受託面積(WCS) 1.34ha	コントラクターによる受託面積(WCS) 1.34ha	作付面積は横ばいが続いているので、どう拡大していくかが課題。耕畜連携水田対策について耕種農家へ周知。	関係機関と連携して、拡大もしくは維持の方向で打ち合わせを行う。	稲発酵粗飼料の作付面積は平成18年度と同様に計画している。	

都道府 県名	市町村名 (取組場所)	実施者	17年度(実績)	18年度				19年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評価・課題	今後の対応		
	北杜市(旧 長坂町)	長坂ファ- ム組合	コントラクターによる受 託面積(WCS) 7.30ha	コントラクターによる受 託面積(WCS) 7.30ha	コントラクターによる受 託面積(WCS) 10.78ha	市の積極的なPRにより 面積の拡大が図られ た。耕畜連携水田対策 について耕種農家への 周知。	関係機関と連携して、 拡大もしくは維持の方 向で打ち合わせを行う。	稲発酵粗飼料の作付面 積は平成18年度と同 様で計画している。	
	北杜市	清里地区飼 料生産組合	-	飼料用トウモロコシの 作付面積の拡大 8.6ha(H17) 11.3ha(H20)	飼料用トウモロコシ作 付面積 10.1ha	今後、細断型ロー ルベ-ラによる作業体系 の確立による作付面積 拡大が見込まれる。	他地域への導入により 飼料作付面積拡大を図 る。また、事業導入の遅 れにより、本年度は二 次発酵防止による保存 性の改善を行う。	飼料用トウモロコシの 作付を11.3haを目標とし てさらに拡大を目指して いる。	H18登録
	富士河口湖 町	山梨型放牧 研究会	草地面積の拡大 12.5ha(計画H16) 16.8ha(計画H17)	草地面積16.8ha	草地面積は16.8haとな り達成をしている。	事業の目標を達成する ことができています。	今後規模に見合う草地 の拡大を関係機関と連 携を図り推進していく。	規模拡大を視野にいれ た技術指導と組合員の 取組を地域へ波及させ ていく。	H18登録
	北杜市	山梨県立ま きば公園	-	年間来場者数20万人	年間来場者数21万人	畜産物の販売イベント により、県内外の消費 者へ畜産のPRができた。	今後も畜産物販売やイ ベ-トによるPRによっ て、消費者への理解の 醸成を図る。	ハヶ岳牧場連絡協議会 により事業計画を作成 し、前年と同様に事業を 推進していく。	H18登録
長野県	伊那市 (ますみヶ 丘)	ますみヶ丘 フォ-ルト組 合	収穫時期に曇雨天日 が多かったため、ロー ルベ-ル作業に困難を来 たし、既存のラッピング マシンとベ-ルグリッ パーの調整・改良に必 要以上の時間を要し た。	細断型ロー-ルに合っ たベ-ルグリッパー(小 口径・大重量)の整備も しくは既存機械の調整・ 改良技術の検討及び情 報収集。	ベ-ルグリッパーの ロー-ルをつかむ部分 に、布などを巻くなど調 整し対応した。	ロー-ルグリッパーを調 整したことにより、機能 させることはできたが、 更なる調整・改良が必要。	細断型ロー-ルベ-ラに より良質な飼料ができ るため、さらにロー- ルベ-ラを活用し、良質 なトウモロコシサイレ- ジの生産を図る。	牧草を減らしトウモロ コシの作付け面積を1 ~2割程度増やす(労力 的に作付け面積を単純 に増やすことは不可 能)。また、刈り取り時 期が牧草と重ならない よう、トウモロコシの播 種時期をずらせ、刈り 取りを遅くする。(細断 型ロー-ルベ-ラの協同 作業を一番最後に行う)	
	松本市 (梓川地区)	倭酪農機械 利用組合	自給飼料(飼料用トウ モロコシ)の作付 29.3ha	自給飼料(飼料用トウ モロコシ)の作付 31.0ha (17年比106%)	自給飼料(飼料用トウ モロコシ)の作付 31.0ha (17年比106%)	作付面積は計画のと おり増加したが、天候 による生育不良のため 単収は減となった。	20年度の目標数値に 向けた計画策定のため、 3月に総会を開催 予定。	自給飼料(飼料用トウ モロコシ)の作付 31.8ha (18年比103%)	H17登録
	東御市 (東御市和 地区)	エボシ山麓 酪農組合		牧草16.3ha	牧草16.3ha	ロー-ルベ-ラーの導入 により、優良粗飼料生 産が可能となった。作 業効率の向上にもつな がった。	飼料作付面積の拡大を 行う。	牧草18ha	H18登録
	塩尻市 (片丘地区)	片丘酪農団 地組合	自給飼料(牧草)の作 付け 11.5ha	自給飼料(牧草)の作 付け 12.5ha (17年比108%)	自給飼料(牧草)の作 付け 13ha (17年比113%)	飼料収穫調整作業時 間の短縮 乾草の品質向上	飼料作付面積拡大のた めの調整活動を行う。 (遊休荒廃地の解消等 も視野に入れながら)	自給飼料(牧草)の作 付け 13.7ha (17年比119%)	H18登録

都道府 県名	市町村名 (取組場所)	実施者	17年度(実績)	18年度				19年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評価・課題	今後の対応		
静岡県	袋井市、森町	JA遠州中央稲わら供給組合	稲発酵粗飼料作付け44ha	稲発酵粗飼料作付け49ha 稲わら乾燥保管施設の設置	稲発酵粗飼料作付け60ha 稲わら乾燥保管施設の設置 1箇所	稲発酵粗飼料の作付けが拡大するとともに、保管施設を設置し、産地の体制が整いつつある。	保管施設を活用し、稲わら、稲発酵粗飼料の栽培を推進する。	稲発酵粗飼料作付け60ha	
	御前崎市	御前崎市放牧研究会		研究会の設立 放牧実証ほの設置 3地区170a	研究会の設立 放牧実証ほの設置 3地区320a	研究会を設置し、実証ほにより技術的な理解が深まった。	耕種農家、地元住民と連し、地域的な広がりとする。	御前崎市内の放牧の継続・普及	H18登録
	浜松市、湖西市、掛川市、菊川市	浜名酪農業共同組合							TMRセンター設置に向けた、事業規模、事業計画、施設の設置箇所の検討及び決定
新潟県	胎内市(旧黒川村)	(有)アグリ黒川(旧黒川村地区大豆生産組合)	稲発酵粗飼料作付面積12.8ha 飼料用稲わら収集7ha	稲発酵粗飼料作付面積の拡大15ha 稲わら収集の取組拡大	稲発酵粗飼料の作付面積4.6ha 飼料用稲わら収集面積20ha	食用米生産増加により、稲発酵粗飼料は減少したが、稲わら収集面積は20haに増加。作付、収集ほ場の確保が課題。	稲発酵粗飼料の作付継続と稲わら収集の取組拡大のための啓発、指導。 肉用牛農家への更なる利用啓発。	稲発酵粗飼料作付面積4ha 飼料用稲わらの収集面積25ha	
	新潟市(旧岩室村)	(有)米工房いわむろ	飼料用とうもろこし作付面積4.6ha 稲発酵粗飼料作付面積16.7ha	稲発酵粗飼料作付面積の拡大20ha 飼料用とうもろこし作付面積の拡大7ha	稲発酵粗飼料作付面積18.7ha 飼料用とうもろこし作付面積なし	稲発酵粗飼料はやや減。とうもろこしは収穫機械の手配が付かず、作付なし。 作付ほ場の確保が課題。	稲発酵粗飼料の作付継続と飼料用とうもろこしへの新規取組開始に向けた検討。 とうもろこし収穫機械導入に向けた支援。	稲発酵粗飼料の作付面積拡大18ha 飼料用とうもろこし作付の開始	H17登録
富山県	氷見市	耕種農家	当該農家のほか、畜産農家が市単独事業により放牧開始、地元農協でも関心を示した。 市内放牧面積1.5ha	市内放牧面積2.5ha (17年比167%)	市内放牧面積3.8ha (17年比253%)	地元農協による放牧の取組が開始された。 地元農協を核とした放牧面積の拡大が課題である。	地元農協に対する放牧の取組への支援。	市内放牧面積4.5ha (18年比118%)	
	立山町	耕種農家(立山放牧組合)	牛を飼ったことのない農家による放牧面積2ha増。 近隣市(富山市)でも関心あり。 町内放牧面積12.8ha	町内放牧面積14.3ha (17年比112%)	町内放牧面積14.0ha (17年比109%)	実施者による放牧意欲は高い。 富山市内でも別の実施者が新たに放牧開始(2.5ha)。 放牧牛や飼養管理施設の確保が課題。	放牧牛や飼養管理施設の確保に対する支援。 富山市内での実施者に対する技術的支援。	町内放牧面積15.0ha (18年比107%) 富山市内放牧面積2.5ha(18年比100%)	
	黒部市	新川育成牧場組合	イベント開催3回、体験学習2回、消費者への意識調査(100人、1回)	畜産ふれあい体験交流会3回、畜産加工調理体験教室2回、体験交流情報提供10回	畜産ふれあい体験交流会3回、畜産加工調理体験教室3回、体験交流情報提供7回	県内畜産物生産に対し理解が醸成された。	次年度計画作成支援。	畜産ふれあい体験交流会3回、畜産加工調理体験教室3回、体験交流情報提供12回	
	魚津市	魚津稲わら収集組合		稲わら収集面積10ha	稲わら収集面積9.1ha	稲わら収集組織が設立された。 収集ほ場の確保が課題。	次年度計画作成支援。	稲わら収集面積10ha(18年比110%)	H18登録

都道府 県名	市町村名 (取組場所)	実施者	17年度(実績)	18年度				19年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評 価 ・ 課 題	今後の対応		
石川県	珠洲市	珠洲市農業協同組合	草地更新面積 8.8ha (県単独事業6.8ha、その他事業外2ha)	草地更新面積 10ha	草地更新面積 7ha (見込)	取り組み地域全体の面積144haに対して、更新面積が少ない。	更新面積の確認、更新後の収量調査。	県単独事業はH18年で終了。 簡易播種機を利用した簡易草地更新を推進。	
	白山市(旧松任市)	松任農業協同組合	耕種農家が他作物へ生産を移行したため、稲発酵粗飼料作付はなし	稲発酵粗飼料の作付			地域内における地区調整	地域内において調整中	
	白山市	和牛一貫農家		稲発酵粗飼料の生産及び稲わら確保により飼料自給率向上	稲発酵粗飼料作付面積 1.2ha 稲わら収集面積 18ha 和牛放牧 2頭	稲わら収集は、主に堆肥との交換でスムーズに進んだ。 しかし、稲発酵粗飼料生産は、生産コストの面で取組が難しかった。	稲発酵粗飼料等自給飼料の給与方法の指導。 耕種農家との連携強化。	休耕田への妊娠牛の放牧頭数を増頭し、飼養管理の省力化を図る。	H18登録
福井県	坂井郡	肉用牛農家15戸	稲わら収集面積 279ha	稲わら自給率100%	稲わら収集面積 319ha	収集面積の維持拡大		稲わら自給率100%	H17登録
	福井市	(有)藤島エンプライズ		稲発酵粗飼料の生産実証 3.6ha	稲発酵粗飼料の生産実証 3.6ha	効率的な収穫体系の整備 作付面積の拡大	市等の調整による、作付水田の確保	稲発酵粗飼料専用収穫機械体系導入 稲発酵粗飼料作付面積 15ha	H18登録
	越前町(旧宮崎村)	かしずファーム		稲発酵粗飼料の生産実証 1.0ha	稲発酵粗飼料の生産実証 1.0ha	効率的な収穫体系の整備 作付面積の拡大	町等の調整による、作付水田の確保	稲発酵粗飼料専用収穫機械体系導入 稲発酵粗飼料作付面積 2.2ha	H18登録
岐阜県	郡上市八幡町	貢間牧草地管理組合	耕作放棄地に約5ヶ月間の放牧を実施。放牧頭数3頭。	放牧頭数と放牧期日の見直しを行う。放牧面積1.6ha、放牧頭数6頭。	放牧面積1.6ha、放牧頭数6頭、放牧期間6/6~10/31(147日)。	ほぼ計画的に実施。	新たに放牧利用を始めるに当たっての阻害要因などを検討し、関係機関による周辺地域への普及啓発を推進。	効率的な放牧を行うため、放牧頭数、放牧期間を見極め計画(1.6ha、6頭)。また、県内先進優良事例として各地域の取り組みのモデルとして普及啓蒙に活用。	
	中津川市	坂下町牛組合	稲わら収集(約4.7ha、18.7t)。	継続して堆肥との交換による稲わら収集を実施(約5ha)。	約5ha(前年比107%)を収集。	地域の自給率向上に寄与。課題として、稲わら収集圃場の集積が困難。	耕種側に合わせた堆肥散布の対応、連携の強化を行う。	継続して堆肥との交換による稲わら収集を実施(約5ha)。作業負担軽減等により高齢化対策を行い、取組面積を維持に努める。	

都道府 県名	市町村名 (取組場所)	実施者	17年度(実績)	18年度				19年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評価・課題	今後の対応		
	高山市	西洞牧草地 管理組合		山間地域における低利 用山林等の有効活用。 放牧面積5ha、放牧頭 数5頭。	強い農業づくり交付金 事業による放牧地整備 を実施。 ・草地造成工1ha ・隔障物整備1,500m	放牧地造成工は12月 に完了、今後放牧可能 場所において放牧実施 (3月)。	19年度より本格的な 放牧を行うため関係機 関と調整。	5月頃から放牧開始予 定(放牧面積5ha)。同 時に、取り組みの周知・ 啓蒙を行う。地域繁殖 雌牛から生産される子 牛20頭を放牧。	H17登録
	富加町・坂 祝町・美濃 加茂市・八 百津町	富加酪農組 合		稲わら23.2ha(86.2t) の収集を行い肉用牛肥 育農家へ供給を行う。	稲わら23.2ha(86.2t) の収集を行い肉用牛肥 育農家へ供給を行っ た。	堆肥の還元および稲 わら収集については計 画的に行った。	新規に収集機を導入 し作業効率を上げ、供 給の安定化を図り、良 質の稲わらを収集。	収集面積の増加 24.2ha(89.5t)。	H18登録
愛知県	田原市	田原飼料生 産組合等	稲わらの収集(約 100ha)。	稲わらの収集(約 110ha)。	稲わらの収集(82ha)。 長雨による天候不順 で収集面積が減少し た。また、品質も悪か った。	稲わらを収集する体 制などが整っている。	体制の維持。	稲わらの収集(約 110ha)。	
	新城市	愛知東飼料 生産コント ラクター	飼料作物生産の受託 (35ha)。	飼料作物生産の受託 (35ha)。	飼料作物生産の受託 (35ha)。	飼料作物の作業を受 託する体系が整ってい る。	引き続き、受託面積の 維持拡大に努める。	飼料作物生産(イタリ アン、ソルガム、稲WCS 等)の受託(40ha)。	
		愛知東農業 協同組合	放牧実施(2ha)。	放牧面積(5ha)。	放牧面積(4.9ha)。	当初予定していた箇所 で、地域から反対され 急遽代替地を探し放牧 することができた。	面積の拡大及び地域 住民の理解促進。	放牧面積(6ha)。	H17登録
	豊田市	加茂和牛改 良組合		放牧面積(3ha)。遊休 農地放牧による地域活 性化方策の検討。	放牧面積(2.2ha)。	当初予定していた箇所 で、地域から反対さ れ、面積が減少した。	面積の拡大及び地域 住民の理解促進。	放牧面積(3ha)。	H17登録
	西尾市・幸 田町	小笠原牧 場・都築牧 場		作付面積(1.1ha)。	作付面積(1.1ha)。	ブロックローテーション により作付場所が変更 されてしまう。	ブロックローテーション に左右されない水田の 確保。	作付面積(2ha)。	H18登録
三重県	大紀町(旧 大宮町)	JA伊勢 大 宮支店	収集面積は約40ha、収 集量は1,023ロール (1mロール)。	現在わら収集は営農 集団を中心に収集され ているが、肉牛農家の 需要は高く、さらなる収 集面積の拡大のため、 他の集団への働きかけ を実施。 わら収集面積目標は 45ha。	17年度同様に営農集 団に働きかけてはいる が、収集量拡大には結 びつかなかった。 わら収集面積24ha (確保量60t)。	天候不順により目標 面積は達成できなかった が、稲わらに対する 需要は高く、不足時に 対する対処方法を検討 する必要がある。	来年度に向けた推進 方策について検討す る。	・収集面積拡大に伴 う貯蔵場所の確保 ・地域外からの確保 方法の検討 ・耕畜連携推進 ・わら収集面積目標 45ha	

都道府 県名	市町村名 (取組場所)	実施者	17年度(実績)	18年度				19年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評 価 ・ 課 題	今後の対応		
	伊賀市	JA伊賀北部		農協がわら収集にかかる機械整備を行う予定であり、わら収集・流通体制について検討・推進。 わら収集面積目標は40ha(17年度は13ha)。	農協がわら収集機を整備し、営農集団に働きかけ地元産稲わらの確保に努めた。 わら収集面積 36.2ha(確保量 46t)。	天候不順により目標面積は達成できなかったが、新規の営農集団(2集団)に稲わら収集を委託しており、当該集団の収益性の改善につながった。	来年度に向けた推進方策について検討する。	・天候不順に対応した確保対策の検討 ・堆肥活用による耕種農家との連携強化 ・わら収集面積目標 50ha	H17登録
滋賀県	日野町	日野町飼料用稲推進協議会	受託組織による飼料用稲の収穫調製作業の実績面積23.8ha(前年度の143%増)。	受託組織による飼料用稲の収穫調製作業の計画面積26ha。	受託組織による飼料用稲の収穫調製作業の実績面積26.6ha(前年度の12%増)。	転作作物としての飼料用稲の普及と、給与農家との耕畜連携の推進により面積拡大が図れた。 作付面積の拡大に対応するため専用機械を追加導入した。一部発酵品質の低下が見られた。	発酵品質の向上を図るため添加資材の利用や技術向上に向けた指導を行う。	受託組織による収穫調製作業の計画面積29ha。	
	甲賀市	JA甲賀郡稲わら生産供給組合	生産供給組合による収穫調製作業の実績面積20.7ha	生産供給組合による稲わら集積の計画面積20ha以上。	生産供給組合による収穫調製作業の実績面積21ha(前年度と同様)。	耕種農家と畜産農家の調整協議により稲わらの供給が計画的に実施された。 改善は見られたが、ほ場により稲わらの水分が異なり品質に差が出る。	集積期間の延長により集積量の拡大を図る。集積作業の効率化を高め、集積面積や品質の向上を図る。	生産供給組織による稲わら集積作業の計画面積20ha以上。	H17登録
	竜王町	山中生産組合	-	-	-	-	-	受託組織による収穫調製作業の計画面積14ha	H18登録
	米原市	伊吹農業生産組合	-	-	-	-	-	生産供給組織による稲わら集積作業の計画面積8ha	H18登録
京都府	中丹地区	京都丹の国農協	稲発酵粗飼料 2.14ha	稲発酵粗飼料 1.42ha	稲発酵粗飼料 1.42ha	栽培農家7戸と肉用牛農家4戸(繁殖3、肥育1)の協定に基づく取組として定着。今後、酪農への需要の拡大が課題。	給与農家の利用促進とともに、酪農家も対象とした給与実証に基づく研修会を開催し、作付推進を行う。新耕畜連携対策等のM/Tを附加するなど、誘導策を検討。	稲発酵粗飼料 2.22ha	
	丹後地区	畜産農家集落等	-	-	-	-	-	8地区18haにおいて、5月下～10月中の期間、肉用牛50頭、乳用牛20頭を放牧	H18登録

都道府県名	市町村名 (取組場所)	実施者	17年度(実績)	18年度				19年度(計画)	備考
				計画	実績	評価・課題	今後の対応		
兵庫県	淡路地域	兵庫県及び畜産農家	放牧面積 20.9ha 放牧頭数 174頭	放牧面積 21.4ha 放牧頭数 178頭	現在調査中	獣害防止を目的にした実証展示を実施し、成果がみられた。遊休農地の権利調整が必要。	遊休農地の権利調整を進める。畜産農家の放牧に対する不安の解消。	未定	
	南あわじ市	あわじ島農協及び営農集団	組織的な稲わら収集面積 0トン	組織的な稲わら収集量 250トン	組織的な稲わら収集量 250トン	機械の導入により効率的に収集ができた。	さらに収集組織や収集面積を増やすように働きかける。	組織的な稲わら収集量 300トン	H17登録
	北但馬地域	畜産農家集団及び耕種農家集団	-	組織的な稲わら収集量 66トン	組織的な稲わら収集量 66トン	はじめて耕種農家と畜産農家の連携により、組織的な稲わら収集ができた。	さらに収集組織や収集面積を増やすように働きかける。	組織的な稲わら収集量 70トン	
	たつの市	株式会社ささぎ農組合	-	-	-	-	-	稲わら収集面積20ha	H18登録
	小野市	小野市、東播磨農協同組合及び営農集団	-	-	-	-	-	牧草5ha新規に作付	H18登録
	赤穂市	赤穂市及び営農集団	-	-	-	-	-	飼料作物作付20ha増加	H18登録
	姫路市	営農集団	-	-	-	-	-	とうもろこしを中心に飼料作物を30ha作付	H18登録
鳥取県	鳥取市(旧鳥取市、旧国府町)、岩美町、八頭町(旧郡家町、旧船岡町)、智頭町	鳥取県畜産農業協同組合(東部コントラクター組合)	・飼料用稲収穫89.9ha ・利用農家 28戸	飼料用稲利用農家の拡大	・飼料用稲収穫 86.5ha ・総ロール数 7,533 (8.7ロール/10a) ・利用農家 29戸	・作付面積の減少 ・収穫作業時の泥混入により、梅雨時期のロール廃棄率が上昇。 ・法人化されたことから(H18.12)、飼料用稲以外の自給飼料作についても積極的な検討が始まっている。	・19年作付けに向けた課題整理	・コーンサイレージの新規取組の開始(10ha)(飼料用稲に加え、一部地域でのトウモロコシの作付けが検討されている)	
	鳥取市(旧気高町、旧鹿野町)	山東飼料生産組合	・飼料用稲収穫 11.1ha	飼料用稲作付面積の拡大	・飼料用稲収穫 12.8ha ・総ロール数 1,222 (9.6ロール/10a)	・作付面積は1.7ha拡大 ・品質は安定している。	・19年作付けに向けた課題整理	・飼料用稲作付面積と利用の拡大によるロール単価の減額(現在3,800円 目標3,000円)	
	伯耆町(旧溝口町)	日光粗飼料生産組合	・作付面積 16.4ha	作付面積の拡大	・作付面積 16.4ha	・労力不足が要因となり適期作業ができておらず、植生の乱れにもつながっている。	・組織の作業体制改善のための検討実施	・組織体制の見直しによる適期作業の徹底化	
島根県	益田市(H18から益田市・津和野町・吉賀町とす)	JA西いわ	・コントラクターによる収穫・調整面積5ha	・WCS収穫調製面積12ha ・稲わら収集面積20ha	・WCS収穫調製面積10ha ・稲わら収集面積11ha	・天候の影響の上、機械の不具合の発生により、目標を下回った。	・冬季座談会等に併せ、集落営農組織等への働きかけを行う。	・WCS収穫調製面積10ha以上 ・稲わら収集面積20ha	

都道府 県名	市町村名 (取組場所)	実施者	17年度(実績)	18年度				19年度(計画)	備 考	
				計 画	実 績	評 価・課 題	今後の対応			
	海士町、西ノ島町、知夫村	海士町、西ノ島町、知夫村	・公共牧場の造成・整備面積35.3ha ・家畜導入頭数116頭	・公共牧場の造成・整備面積42.0ha ・繁殖雌牛の増頭(1341頭 1425頭)	・公共牧場の造成・整備面積42.0ha (2月1日付け調査結果待ち)	・計画どおりの事業実施が進んでいる。 -	・関係機関等で組織するプロジェクトチームで各種検討等を継続実施する。	・草地林地 - 事業実施計画策定 ・繁殖雌牛の増頭(1500頭)		
	大田市	富山町和牛改良組合(婦人部)		・放牧研修会の実施 ・耕種農家への放牧牛貸出のための契約推進 ・出前放牧の仕組みづくり ・水田放牧面積の拡大	・実施、参加(11/22) ・JA放牧牛貸出センター等のシステム構築仕組みづくり実施 ・水田放牧面積5.4ha	・この取り組みから集落での繁殖牛経営の取り組みが始まった。また、集落での取り組みも散見され始め、着実に波及しつつある。	・引き続き独自活動が計画的に実施されるよう関係機関で側面的に支援を継続実施する。 ・放牧研修会への参加(2月)	・品目横断 - 等への対処策としての放牧の検 ・水田放牧面積7ha	H17登録	
	松江市鹿島町	鹿島放牧組合	(H18新規登録)	・新設放牧場適地調査の実施 ・新設放牧場整備構想の検討 ・学校教育と連携した農業理解の場の提供 ・繁殖牛の増頭(58頭75頭)	・調査の実施と地元地権者との協議開催 ・事業実施に向けた検討の実施 ・シンボル看板の設置(7月) (2月1日付け調査結果待ち)	・地元地権者から同意が得られなかった。 ・事業実施に前向きな検討がなされた。 ・新聞等でも取り上げられ、大きな反響があった。 -	・市改良組合での協議実施(1月)。 ・同上。県等関係機関の支援継続。 ・次年度計画の検討。	・(現在検討中。) ・農業理解の場の提供の継続実施。	H18登録	
	安来市	JAやすぎ・安来ふるさと公社							稲わら収集面積80ha	H18登録
	斐川町	斐川町肉用牛放牧地利用組合							水田等放牧面積18ha	H18登録
岡山県	津山市	津山地域飼料生産コントラクター組合	コントラクターによる受託面積14.5ha(稲粃酢粗飼料)	コントラクターによる受託面積14.5ha(17年比100%)	コントラクターによる受託面積21.2ha(17年比146%)	奈義地区の作付け拡大に伴い、受託面積が増加した。	米政策座談会等に畜産担当が出席し、コントラクターを利用したWCS拡大を推進。	奈義地区をはじめ、県下全域でWCSの作付け拡大とコントラクターの利用推進。		
	笠岡市(笠岡湾干拓)	(農)干拓コントラ	コントラクターによる受託面積延べ116ha(トウモロコシ2期作)	コントラクターによる受託面積延べ116ha(17年比100%:トウモロコシ2期作)	コントラクターによる受託面積延べ102ha(17年比88%:トウモロコシ2期作)	受託地以外に、未利用地を活用したトウモロコシ生産(延べ173ha)を行い、合計275haで栽培を実施した。	受託地と未利用地活用の合計は、17年比104%に拡大している。	引き続き、受託地と未利用地で、トウモロコシの大規模二期作栽培を展開する。		
	岡山市	邑久郷粗飼料生産組合	-	H18年度事業でWCS収穫機械を導入する。(WCS目標10.4ha)	WCS収穫12.0ha、イタアン8.2ha(1月18日時点)	WCS収穫以外に、牧草収穫等にも有効活用している。	実績を集計し、今年度の反省会を経て来年度に資する。	WCS適期収穫による品質向上に努めるとともに、牧草収穫等にも有効活用する。	H17登録	
	岡山市	岡山中央稲わら収集組合	-	H18年度から、稲わら収集・広域流通に取り組む。(稲わら目標15ha)	稲わら収集面積15ha(1月18日時点)	初めての収集作業であったが、品質が良く、畜産農家から喜ばれている。	2月1日に実績報告会を開催予定	H19年度は本格的に機械導入を行い、収集面積の拡大に努める。	H18登録	

都道府 県名	市町村名 (取組場所)	実施者	17年度(実績)	18年度				19年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評価・課題	今後の対応		
広島県	北広島町 (旧芸北町)	芸北和牛放 牧部会	22.5haで放牧(うち、 19.4haの水田放牧)を実 施。	北広島町肉用牛団体連 絡協議会で新たに40ha の放牧を実施予定。	北広島町肉用牛団体連 絡協議会で45haの放牧 を実施。	水田放牧の面積の拡大 が図られたが、今後さら なる放牧面積拡大に向 けた資材や放牧牛の確 保が必要となる。	さらなる放牧面積拡大 に向けた資材や放牧牛 の確保を行う。	北広島町肉用牛団体連 絡協議会で引き続き 45haの放牧を実施予 定。	
	神石高原町	神石高原町	神石高原町で152.53ha 分の受託作業と、4.4ha の飼料イネの作付けが 行われた。	7haの飼料イネの作付 けを行う。 コントラクターによる受 託面積の拡大。	神石高原町で延べ 202.4ha分の受託作業 (見込み)と、5.4haの飼 料イネの作付けが行わ れた。	需要にあった面積や労 力の確保。 生産コストの低減、良質 な稲発酵粗飼料用稲の 栽培・調整技術の確立 が必要。	発酵粗飼料用稲の作付 け誘導や先進事例の情 報収集、技術検討を行 う。	飼料イネ作付け面積の 拡大。 コントラクターによる受 託面積の拡大。	
山口県	阿武地区	阿武町	飼料イネ 8.4ha	耕畜連携の推進	飼料イネ 7.9ha	地域内での計画的な作 付け・利用体制		耕畜連携の推進	
	長門地区	長門市、県	放牧 35カ所、3460a	放牧の推進	40カ所、3671a 8月末	レンタカウシステムによ る放牧推進		放牧の推進	
	柳井地区	地域肉用牛 農家	放牧 21カ所、987a	放牧の推進	14カ所、683a 8月末	レンタカウシステムによ る放牧推進		放牧の推進	H17登録
	秋芳地区	地域水田農 業推進協議 会、他	放牧 37カ所、836a	放牧の推進	41カ所、1817a 8月末	レンタカウシステムによ る放牧推進		放牧の推進	H18登録
徳島県	徳島市	徳島県	実証ほの調査データを取 りまとめた。	WCSの作付面積拡大、品質の向上、生産 状況等の把握を行う。	WCSの作付、品質の 向上が図られた。	高齢化、担い手不足が 乏しいこと等の課題、問 題点があり、解消出来 るよう、取組を行って いく。	関係団体、関係市町村 に周知、協力依頼を行 い、作付面積の拡大を 行う。	WCSの作付面積拡大、品質の向上が行え るよう、生産状況等の 把握を行う。	
	上板町	徳島県	畜産草地研究所から講 師を招き、WCSに関する 講演会を開催した。	WCSの作付面積拡大、品質の向上、生産 状況等の把握を行う。	WCSの作付、品質の 向上が図られた。	高齢化、担い手不足、 機械装備が乏しいこと 等の課題、問題点があ り、解消出来るよう、取 組を行っていく。	関係団体、関係市町村 に周知、協力依頼を行 い、作付面積の拡大を 行う。	WCSの作付面積拡大、品質の向上が行え るよう、生産状況等の 把握を行う。	
	美馬市	美馬和牛改 良組合	放牧に関する講演会等 を開催し、放牧アドバイ ザーが放牧候補地を巡 回指導した。	放牧に関する巡回指導 等を行い、放牧の指導 を行う。	放牧に関する巡回指導 等を行い、放牧の指導 を行った。	高齢化、担い手不足が 乏しいこと等の課題、問 題点があり、解消出来 るよう、取組を行って いく。	関係団体、関係市町村 に周知、協力依頼を行 い、放牧の推進を行う。	放牧に関する講演会等 を開催し、放牧の指導 を行う。	H17登録
	鳴門市	徳島県	-	-	-	-	-	-	WCSの作付面積拡大、品質の向上が行え るよう、生産状況等の 把握を行う。

都道府県名	市町村名 (取組場所)	実施者	17年度(実績)	18年度				19年度(計画)	備考
				計画	実績	評価・課題	今後の対応		
香川県	高瀬町 比地二地区	比地二酪農組合	WCSを1.93haで作付した。	WCSを耕畜連携対策を活用して1.61haで作付予定。	WCSを1.61haで作付した。	当初の目標を達成した。	—	耕畜連携対策を活用して推進する。	-
	坂出市 林田町	有限会社古本農産	—	—	WCSを1haで作付した。国産稲わら収集14.3haのうち4.2ha分を肉牛農家へ流通した。	取組に熱心で、地域農業の中心的存在である。	—	耕畜連携推進事業、国産粗飼料増産事業を活用し推進拡大を図る。	H18登録
愛媛県	西条市	周桑・三芳飼料稲生産組合	稲発酵粗飼料の作付面積22.0ha。	稲発酵粗飼料作付面積の拡大。	稲発酵粗飼料作付面積25ha。	作付面積が拡大した。(対前年比114%)	耕畜連携による転作田の利用推進。	市、JA、生産者、耕種農家間の調整を図り、作付け面積の拡大を図る。	
	西予市	大野ヶ原寺山飼料生産利用組合	飼料生産面積38.8ha	飼料生産面積の拡大。	飼料生産面積40.7ha	作付面積が拡大した(対前年比105%)	目標面積以上の取組みを推進する。	受益農家間の連携により飼料生産の拡大に努める。	
	宇和島市	三間コントラクター組合	トウモロコシ作付面積7ha。	細断型ロールベアラ導入による飼料作物の生産拡大。	トウモロコシ作付面積7ha。	昨年と同等に取組めた。	共同で細断型ロールベアラを利用し、飼料調整を行なう。	飼料栽培技術向上のため、関係機関による技術指導や運営助言を行なう。	H17登録
	西予市	蔵良地区飼料増産組合		細断型ロールベアラ導入による飼料作物の生産拡大。	飼料生産面積70ha。	作付面積が拡大した(対前年比109%)	目標面積以上の取組みを推進する。	関係機関が一体となり技術指導を行なうことで、飼料増産に取組む。	H18登録
	愛南町	広見営農組合						飼料機械を導入することで、耕畜連携による転作地での飼料作物の栽培、収穫調整を行なう。	H18登録
高知県	四万十町 (旧窪川町)	おきつ和牛組合	—	肉用牛3頭 6頭 放牧面積4.0ha	肉用牛5頭 放牧面積4.0ha	肉用牛:良好 面積:耕畜連携対策交付金及び産地づくり交付金の範囲内で実施	特になし	耕作放棄地の低コスト管理と景観保全を継続(40,172㎡)	H17登録
	土佐清水市	土佐清水市地域内の肉用牛生産農家及び耕種農家等	—	耕作放棄地への放牧 5.0ha 6.0ha	耕作放棄地への放牧 6.0ha 放牧研修会の開催	耕種:復元した畑地の利活用が課題 畜産:放牧面積の増	耕種:農産関係機関を交えた検討 畜産:簡易放牧の推進	耕作放棄地の簡易放牧の推進を継続(具体的数値なし)	H18登録
	土佐町	土佐町肉用牛生産組合	繁殖牛預託施設1棟(国庫)	牧場連絡道整備(県単)	—	—	—	周年預託肉用牛頭数0頭 H19末50頭	H18登録
福岡県	宮若市	畜産農家、直鞍農業協同組合	稲WCS生産21.2ha	稲WCS生産20ha	稲WCS生産20.5ha	当初計画面積を達成したが、稲種子の発芽不良が発生。	現状の作付面積の拡大を図る。	現在、調整中	

都道府 県名	市町村名 (取組場所)	実施者	17年度(実績)	18年度				19年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評 価・課 題	今 後 の 対 応		
	みやこ町	畜産農家、 下高屋農作 業受託組合	稲WCS生産10.4ha	稲WCS生産10.8ha	稲WCS生産11.2ha	当初計画を達成	現状の作付面積の拡大 を図る。	現在、調整中	H17登録
	大川市	大川市畜産 振興対策協 議会	稲WCS生産11.0ha	17年度実績以上を目 標	稲WCS生産19.6ha	当初計画面積を達成し たが、稲種子の発芽不 良が発生。	現状の作付面積の拡大 を図る。栽培の低コス ト化を検討(疎植、直播)	現在、調整中	H17登録
	柳川市	清和会	稲WCS生産11.6ha	17年度実績以上を目 標	稲WCS生産12.8ha	当初計画を達成	現状の作付面積の拡大 を図る。栽培の低コス ト化を検討(疎植、直播)	現在、調整中	H17登録
	うきは市	うきは市		耕作放棄地において、 市単独2頭、県委託2頭 の計4頭の和牛放牧調 査を計画	市内の耕作放棄地5ほ 場、計170aで放牧調査 を実施	当初計画を達成	耕作放棄地を活用した 放牧の普及推進を図る	耕作放棄地において、 市単独2頭による放牧 調査を継続実施	H18登録
	高田町	高田町		耕作放棄地において、 町単独2頭による和牛 放牧調査を計画	町内の耕作放棄地1ほ 場、計50aで放牧調査を 実施	当初計画を達成	耕作放棄地を活用した 放牧の普及推進を図る	耕作放棄地において、 町単独2頭、県委託2頭 の計4頭の和牛放牧調 査を計画	H18登録
	八女市	新庄飼料生 産組合	細断型ロールペーを活用 したトウモロコシの作付 4.4ha	細断型ロールペーを活用 したトウモロコシの作付 5.4ha	細断型ロールペーを活用 したトウモロコシの作付 5.3ha	ほぼ当初計画を達成	細断型ロールペーを活用 したトウモロコシの作付拡 大	現在、調整中	H18登録
佐賀県	玄海町	浅木場肉用 牛組合	—	自給飼料生産面積 81.0 ha 〔 稲わら 63.0 ha スーダン、イタリアン 18.0 ha	自給飼料生産面積 80.4 ha 〔 稲わら 65.0 ha スーダン、イタリアン 15.4 ha	飼料作物の生産面積が 若干少なかったもの の、総体的には、計画 を達成できた。	借地面積を増やし、自 給飼料の栽培面積の拡 大を図る。	自給飼料生産面積 81.0 ha 〔 稲わら 63.0 ha スーダン、イタリアン 18.0 ha	H17登録
	唐津市	高野飼料生 産組合	—	自給飼料生産面積 32.12 ha 〔 稲わら 28.0 ha ソルゴ、エンバク、イタリアン 4.12 ha	自給飼料生産面積 33.8 ha 〔 稲わら 30.0 ha ソルゴ、エンバク、イタリアン 3.8 ha	飼料作物の生産面積が 若干少なかったもの の、総体的には、計画 を達成できた。	飼料作物の増産を図 る。	自給飼料生産面積 32.12 ha 〔 稲わら 28.0 ha ソルゴ、エンバク、イタリアン 4.12 ha	H17登録
	唐津市	沙子飼料生 産組合	—	自給飼料生産面積 16.9 ha 〔 稲わら 10.6 ha ソルゴ、エンバク、イタリアン 6.3 ha	自給飼料生産面積 18.6 ha 〔 稲わら 12.0 ha ソルゴ、エンバク、イタリアン 6.6 ha	計画を達成できた。	今後も、計画通り自給 飼料の増産に努めてい く。	自給飼料生産面積 16.9 ha 〔 稲わら 10.6 ha ソルゴ、エンバク、イタリアン 6.3 ha	H17登録

都道府 県名	市町村名 (取組場所)	実施者	17年度(実績)	18年度			19年度(計画)	備 考	
				計 画	実 績	評価・課題			今後の対応
	唐津市	二反田飼料 生産組合	-	自給飼料生産面積 23.4 ha 〔 稲わら 15.4 ha スーダン、イタリアン 8.0 ha〕	自給飼料生産面積 23.4 ha 〔 稲わら 15.4 ha スーダン、イタリアン 8.0 ha〕	計画を達成できた。	飼料作物の生産面積を 段階的に増やす予定。	自給飼料生産面積 26.2 ha 〔 稲わら 17.5 ha スーダン、イタリアン 8.7 ha〕	H17登録
	唐津市	ぬげん谷飼 料機械利用 組合	-	自給飼料生産面積 46.0 ha 〔 稲わら 31.6 ha ソルゴ、エンバク、イタリアン 14.4 ha〕	自給飼料生産面積 46.0 ha 〔 稲わら 31.6 ha ソルゴ、エンバク、イタリアン 14.4 ha〕	計画を達成できた。 飼料作物の生産面積を 増やすため、飼料畑の 確保が必要となる。	うまかロール(ソルゴー 類)を重点的に増やす 予定。	自給飼料生産面積 47.2 ha 〔 稲わら 32.6 ha ソルゴ、エンバク、イタリアン 14.6 ha〕	H17登録
	嬉野市	嬉野地区東 吉田飼料生 産組合	-	自給飼料生産面積 12.15 ha 〔 稲わら 9.4 ha スーダン、エンバク、イタリアン 2.75 ha〕	自給飼料生産面積 13.1 ha 〔 稲わら 11.0 ha スーダン、エンバク、イタリアン 2.1 ha〕	飼料作物の生産面積が 若干少なかったもの の、総体的には、計画 を達成できた。	作業の効率化(作業コ スト、雇用の低減)を図 りつつ、引き続き飼料の 生産面積を拡大してい く。	自給飼料生産面積 12.5 ha 〔 稲わら 9.4 ha スーダン、エンバク、イタリアン 2.75 ha〕	H17登録
	伊万里市	駒鳴飼料生 産機械利用 組合	-	自給飼料生産面積 17.3 ha 〔 稲わら 15.35 ha イタリアン 1.95 ha〕	自給飼料生産面積 17.3 ha 〔 稲わら 15.35 ha イタリアン 1.95 ha〕	計画を達成できた。 今後は、できるだけ地 域内での面積拡大を図 る必要がある。	計画の着実な実行とと もに、取組面積の拡大 を図るため、地域内 での集会などで働きかけ を行う。	自給飼料生産面積 20.4 ha 〔 稲わら 18.05 ha イタリアン 2.35 ha〕	H17登録
	伊万里市	山口飼料生 産機械利用 組合	-	自給飼料生産面積 16.2 ha 稲わら 16.2 ha	自給飼料生産面積 16.2 ha 稲わら 16.2 ha	計画を達成できた。 今後は、できるだけ地 域内での面積拡大を図 る必要がある。	計画の着実な実行とと もに、取組面積の拡大 を図るため、地域内 での集会などで働きかけ を行う。	自給飼料生産面積 19.2 ha 〔 稲わら 18.6 ha イタリアン 0.6 ha〕	H17登録
	長崎県	諫早市	川内町飼料 作物安定供 給組合	-	-	-	-	-	稲わら収穫面積: 108.1ha 麦わら収穫面積:24.1ha
吾妻町		吾妻町	稲WCS作付面積: 8.0ha	稲WCS作付面積: 9ha	稲WCS作付面積:9ha	作付け推進により計画 を達成することができ た。	今後、作付面積を維持 していくための支援を 行っていく。	稲WCS作付面積:9ha	
五島市		翁頭地区五 島牛ヘル パー組合	放牧延べ面積:2.0ha 放牧頭数:20頭	放牧延べ面積:2.4ha 放牧頭数:24頭	放牧延べ面積:3.5ha 放牧頭数:16頭	放牧面積は順調だが放 牧頭数が計画的に進ん でいない。	草地管理の徹底及び放 牧頭数の増加を図る	放牧延べ面積:4ha 放牧頭数:18頭	
小値賀町		小値賀町、 放牧集団等	-	平成18年度当初に推 進体制の構築等を検 討・決定	関係機関、生産組織等 で組織した、地域として 放牧を推進(「島ごと放 牧」)する推進協議会を 設立。	放牧推進体制は構築さ れた。 今後は、具体的推進策 を如何に実行するかの 検討が必要。	放牧(可能)地の集積・ 流動化、共同利用、適 正管理等、放牧推進に 係る作業の実施。	左記対応を踏まえ、モ デル地区を設定し、補 助事業等を活用しなが ら、「島ごと放牧」を実践 する。	H17登録

都道府 県名	市町村名 (取組場所)	実施者	17年度(実績)	18年度				19年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評価・課題	今後の対応		
	五島市	べべんこ はーと飼料 増産受託組 合	-	飼料作付作業:24ha 飼料収穫作業:5ha 稲わら収穫作業:13ha	飼料作付作業:21ha 飼料収穫作業:4ha 稲わら収穫作業:10ha	天候不順による春作 飼料作物の収穫不良や 秋作飼料作物の播種遅 延、台風による稲の倒 伏等により、作業面積 の減となった。	組合が発足して間もな いため、広域的に飼料 受託作業の内容等につ いてPRし受託面積の 拡大を図るとともに、オ ペレータの確保に努め ていく。	飼料作付作業:27ha 飼料収穫作業:29ha 稲わら収穫作業:13ha	H18登録
	対馬市	JA対馬市	-	稲わら収穫面積:15.5ha	稲わら収穫面積:15.5ha	天候にも恵まれたた め、安定した稲わら収 集と供給を実施するこ とができた。 今後、さらに供給先を確 保し、未利用稲わらの 利用率を高めることが 課題である。	本年度の活動の評価と 来年度の課題を明らか にするため、3月に会議 を行う。	稲わら収穫面積:15.5ha	H18登録
熊本県	阿蘇郡市	JA阿蘇コン トラクタ組合	稲わら160t(概数)	JA阿蘇とJA菊池の 協定に基づき計画的な 取組みを推進。	稲わら堆肥交換:20ha (推定:稲わら100t、堆 肥300t) いずれも概数	おおむね達成 関係機関の連携強化 ストックヤードが未整備	人的な体制整備 今後、ストックヤ ードの確保	イナワラ:400t、堆肥: 800t	
	上益城郡内	JA上益城	耕畜連携推進会議 の開催 稲わらと堆肥の広 域流通の開始(水田面 積5ha)	関係機関の連携によ る耕畜連携の取組み 拡大に向けた推進を行 う。	耕畜連携推進会議 の開催 稲わらと堆肥の広 域流通の開始(水田面 積10ha) 実績は概数	おおむね達成	関係機関の連携によ る耕畜連携の取組み 拡大	耕畜連携推進会議 の開催 稲わらと堆肥の広 域流通の拡大。	
	天草管内	天草農業活 性化協議会	水田裏放牧の新規 取り組み農家2戸 放牧面積90a	飼料イネ新品種の展示 ほ	ニシアオバ展示ほ2カ所 (有明町、栖本町)展示 ほ面積各30a	直播・移植の比較では 直播の収量は移植の6 割程度、品種の比較で は対照(ホシアバ)とほ ぼ同収量	直播の対コストパフォー マンズの検討	新品種と直播の展示ほ の設置	
	湯前町	湯前酪農組 合 熊本県たば こ耕作組合 湯前支部	受託面積8ha	耕畜連携推進による、 飼料稲WCSの栽培と 利用	受託面積6.94ha	おおむね達成	前年度に引き続き耕 畜連携を進め、飼料稲 WCSを栽培し、利用す る。	受託面積8ha	
	宇城市不知 火町小曾部 地区	小曾部ホ ルクロッ 生産組合	稲発酵粗飼料作付面 積10.2ha(16年度比 70%) 堆肥還元面積6.6ha (16年度比78%)	稲発酵粗飼料作付面 積10.2ha(17年度比 100%) 堆肥還元面積6.6ha (17年度比100%)	稲発酵粗飼料作付面 積15.1ha(17年度比 148%) 堆肥還元面積5.8ha (17年度比88%) いずれも概数	おおむね達成	組合員数に変化はな いため、今年度並みの 作付けを確保していく計 画である。	稲発酵粗飼料作付面 積15.1ha(18年度比 100%) 堆肥還元面積5.8ha (18年度比100%)	

都道府 県名	市町村名 (取組場所)	実施者	17年度(実績)	18年度				19年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評価・課題	今後の対応		
	らくのうま ガース阿蘇ミ ルク牧場	熊本県酪農 業協同組合 連合会	来園者 232,858人 ふれあい体験(有 無料)38,552人 手作り体験11,163 人 酪農等体験20,142 人	来園者 250,000人 ふれあい体験(有 無料)100,000人 手作り体験 15,000 人 酪農等体験25,000 人	おおむね計画通り	体験メニューのマン ネリ化 悪天候時の体験 メニュー開発 草地の未活用 食育の進め方 地産地消への積極 取り組み	食育を踏まえた体 験メニューの開発 地元農畜産物を活 用した積極的な食の提 供 放牧等による草地 の有効活用 自然の中での家畜 等とのふれあい	来園者 250,000人 ふれあい体験(有 無料)100,000人 手作り体験 15,000 人 酪農等体験	
	西原村	西原村総合 コントラク ター組合	H17年8月設立総会 8月～わら収集開始 8月～事業取組 11月～堆肥散布開始	8月～わら収集 11月～堆肥散布 飼料作物部門の強化 のため、翌年度より事 業(強い農業づくり交付 金)に取組む	イナワラ収集:15ha 堆肥散布:100ha いずれも概数 事業(強い農業づくり交 付金)による自走式コー ンハーvester等の導入(予 定)	おおむね達成	引き続き、イナワラ収 集、堆肥散布作業の受 託を行う。 新規機械導入に伴う、 飼料集各作業受託の拡 大	イナワラ収集:15ha(18 年度比100%) 堆肥散布:100ha(18年 度比100%) トウモロコシ収穫:20ha	H17登録
	菊池市	北吉住不耕 起組合 泗水コントラ クター利用組 合	-	広域放牧の推進 トウモロコシ作付け面積 の拡大 コントラ推進 TMR給与体制整備	放牧頭数80頭 いずれも概数	おおむね達成	トウモロコシ不耕起播種機、 自走式ハーvester導入、 TMR供給センター設置に ついて19年度事業化を 計画中	不耕起播種機導入 ハーvester導入 TMRセンター設置 放牧頭数100頭	H18登録
	菊陽町	熊本市酪農 業協同組合	-	大規模収穫機械を導入 することにより、専任オ ペレーターを雇用してトウ モロコシ収穫を行う、コントラ クター体制の樹立。	H18年5月設立総会 H18年11月自走式ハー vester導入 H18年11月～トウモロコシ 収穫	おおむね達成	トウモロコシ収穫作業(一及 び二期作)の受託と、受 託面積の拡大。	受託面積:71.4ha	H18登録
	阿蘇市	阿蘇カルテラ 粗飼料生産 組合	-	共同粗飼料生産組織立 ち上げによる、地域の 稲わら収集及び流通の 拡大	H18年3月:設立総会 H18年9月:稲わら収集 開始 H19年2月:レーキ、ラッピング マシン導入予定 稲わら収集:37.8ha 収集面積は概数	おおむね達成	高性能収穫調製機械の 導入に伴う、稲わら収 集面積の拡大	稲わら収集:37.8ha (18年度比100%)	H18登録
	産山村	中西田尻組 合	-	-	-	-	-	稲わら及び牧乾草の高 性能収穫調製機械導入 による、地域の繁殖牛 及び肥育牛経営におけ る粗飼料の安定確保	H18登録
	高森町	小倉原飼料 生産組合	-	蹄耕法を用いた草地整 備による、周年放牧の 実施及び放牧頭数の拡 大	H17年10月:設立総会 H18年7月着工 H19年2月末完了予定 整備面積:10.9ha	おおむね達成	播種牧草が定着する4 月以降放牧予定	放牧計画:43頭(実頭 数) 放牧期間:周年	H18登録

都道府 県名	市町村名 (取組場所)	実施者	17年度(実績)	18年度				19年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評 価 ・ 課 題	今後の対応		
	高森町	中色見自給 飼料生産組 合	-	高性能収穫調製機械の 導入に伴う、粗飼料の 効率的収穫体制確立及 び自給粗飼料の安定確 保	H18年8月:設立総会 H18年10月:機械導入 H18年5・9月:牧草収穫	機械導入が作業に間に 合わず、機械の調達、 作業期間の確保に苦慮	高性能機械の導入によ る、安定した収穫作業 の実施	粗飼料収穫面積: 40.5ha	H18登録
	相良村	高原機械利 用組合	-	高性能収穫調製機械の 導入に伴う、飼料イネ及 び稲わら収穫面積の拡 大及び自給粗飼料とし ての確保	H18年10月:設立総会 H18年12月着工予定 H18年9月~:飼料イネ及 び稲わら収穫	機械導入が作業に間に 合わず、機械の調達、 作業期間の確保に苦慮	高性能機械の導入によ る、安定した収穫作業 の実施	飼料イネ:11.7ha 稲わら:18.9ha	H18登録
大分県	豊肥地域 (旧竹田直 入地域)	関係町・農 協・県等	中山間直接支払い等 の導入により公共牧場 等の再生を図った。	利用率が低下した草 地の問題点等の実態調 査及び県単事業による 草地活性化対策の実 施。	公共牧場等の活性化 が図られた。	利用率が低下した草 地の問題点等の実態調 査及び県単事業による 草地活性化対策の実 施。	畜産農家等の連携に よる公共牧場の活性化		
	国東市国東 町	国東町飼料 生産組合	コントラクターによる受 託面積45.9ha 梱包格納機及び積込機 の導入を行った。	コントラクターによる受 託面積は前年度(46h a)並み。	平成17年度の機械導 入により、作業効率の 向上が図られた。	他作物の受託及び他 部門の受託。	受託面積の拡大		
	北部地域 (旧西高地 域)	豊後高田営 農コントラ クター	コントラクターによる受 託面積160ha(16年 比200%)	稲わら収集に加え、牧 草栽培及び堆肥散布の 実施 供給契約の文書化(3 年間)	左記内容の新たな作 業受託開始により、経 営の安定化を模索し た。	稲わら収集に加え、牧 草栽培及び堆肥散布の 実施。 飼料作物実証展示圃栽 培の実施。	他作物の受託及び他 部門の受託。		
宮崎県	都城市	農事組合法 人夢ファ ームたるぼう	飼料作物栽培面積 25ha	集落営農組織の中での 飼料作物栽培面積の拡 大。	飼料作物栽培面積 19.5ha	ブロックローション の中での作付けのた め、年により変動あり	転作作物の中で飼料作 物栽培面積拡大の推進	飼料作物栽培面積 20ha	
	えびの市	(有)ながえ 村生産組合	稲わら収集:30ha イタリアン:10ha 堆肥散布:20ha	効率的な受託作業の推 進を図る。飼料作物作 付けは、収集面積の拡大 を図る。	稲わら収集:20ha イタリアン:10ha 堆肥運搬:20ha 堆肥散布:20ha 飼料イネ栽培:2ha	好天のため、良質な稲 わらが収集できた。飼 料イネは近く集中した 栽培ができた。	引き続き効率的な受託 作業を推進する。飼料 イネ栽培は今後も継続 する。	稲わら収集:20ha イタリアン:10ha 堆肥運搬:20ha 堆肥散布:20ha 飼料イネ栽培:2ha	
	宮崎市他	JA宮崎中 央	飼料イネは台風の影響 により、収量が減少し た。	飼料イネ種子価格を下 げることで、コスト低減 を図り、作付面積を拡 大する。	飼料イネ作付け面積 460ha	飼料イネの作付け面積 の増加の他、9月~11 月の天候が良かったた め、稲わら収集もでき た。	種子の価格助成等を行 い、さらなる面積の拡 大を推進する。	さらに耕畜連携の取組 を推進し、面積の拡大 に努める。	H17登録
	都城市	霧島コント ラクター組 合	-	・自走式フォーレー ジハーベスター等の導入 と組合の設立 ・コントラクターによる受 託面積63ha	・左記機械導入と組合 設立 ・コントラクターによる受 託面積57ha	・機械導入初年度で作 業にも慣れ、受託面積 も概ね計画通りであ った。 ・受託面積の拡大の課 題	・品評会やセリ市会場 で機械やサイレージを 展示し、地域の酪農家 や和牛繁殖農家にPR を実施。	コントラクターによる受 託面積70ha(18年比 120%)	H18登録

都道府 県名	市町村名 (取組場所)	実施者	17年度(実績)	18年度				19年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評価・課題	今後の対応		
鹿児島 県	始良地区 湧水町	(有) アグリセンタ- 栗野	飼料収穫作業 堆肥散布等作業 稲わら等収穫作業75ha	飼料収穫作業 24ha (H17年比 133%) 堆肥散布等作業 10ha (H17年比 333%) 稲わら等収穫作業 (H17年比 27%)	飼料収穫作業 18ha (計画比 75%) 堆肥散布等作業 3.1ha (計画比 31%) 稲わら等収穫作業 (計画比 375%)	飼料収穫作業及び堆肥 散布等作業はほぼ現状 維持となり計画を達成 できず。 稲わら等収穫作業面積 は増加し、計画を達成。	飼料収穫作業、堆肥散 布作業等について安定 的に受託できるよう推 進する。	飼料収穫作業 24ha (18年比 133%) 堆肥散布等作業 10ha (18年比 323%) 稲わら等収穫作業 (18年比 100%)	
			霧島市 始良町 湧水町	認定農業者 対象者 20人 対象面積 39.2ha	耕畜連携推進対策 対象者 22人 (17年比 110%) 対象面積 45ha (17年比 115%)	耕畜連携推進対策 対象者 20人 (計画比 91%) 対象面積 64ha (計画比 142%)	対象者は現状維持と なったが対象面積は増 加し、計画を達成。	対象者の増加及び対象 面積の拡大について推 進を図る。	耕畜連携推進対策 対象者 22人 (H18年比 110%) 対象面積 67ha (H18年比 105%)
	霧島市	(有) きつねヶ丘 牧場	パスチャードリルによる 不耕起播種。 飼料畑 10.5ha 放牧地 12ha 放牧期間 周年	パスチャードリルによる 不耕起播種。 飼料畑 10.5ha (17年比 100%) 放牧地 12ha (17年比 100%) 放牧期間 周年	パスチャードリルによる 不耕起播種。 飼料畑 10.5ha (計画比 100%) 放牧地 12ha (計画比 100%) 放牧期間 周年	適期追播等によりパヒ アは生育は良好だった が、秋季の少雨の影響 により全体的にイタリア ンの発芽および生育が 悪く、放牧地は放牧に 耐え得る状況にない。	適期播種、適期施肥に よる増収を図り、自給率 の向上に努める。	パスチャードリルによる 不耕起栽培。 飼料畑 10.5ha (H18年比 100%) 放牧地 12.0ha (H18年比 100%) 放牧期間 周年	
	屋久町及び 上屋久町	屋久町黒 崎地区和 牛生産グ ループ等	・未利用地の放牧利用 2ha ・計画達成のための検 会の開催	・未利用地の集積によ 放牧と定期的な草地管 理の実施	・未利用地の集積によ 放牧と定期的な草地管 理の実施	未利用地が有効利用さ れ、周年放牧が可能と った。今後は定期的な 草地管理が必要。	定期的な草地管理の 実施	・定期的な草地管理 ・他農家への普及啓発	
	志布志市 松山町	(財)松山町 農業公社	飼料収穫調整作業受託 面積 延べ 673ha	飼料収穫調整作業受託 面積 延べ 684ha	飼料収穫調整作業受託 面積 延べ 680ha (12月末現在見込み)	12月末現在で前年比1% 増加見込み。 春作での利用を一層推 進する。	飼料生産対策事業によ りロールベラー、マニ アスプレッター、ショベ ルローダーを導入し、収 穫調整及び堆肥散布作 業の一層の効率化を図 る。	作業受託面積 延べ 696ha	H18登録
	肝付町	甫与岳粗 飼料生産 組合		稲わら 40ha	稲わら 60ha トウモロコシ3.5ha ソルゴー3ha スーダン9ha エン麦18ha イタリアン20ha	・稲わらは計画比 150% 天候に恵まれ、良質 のわら収穫となった。 ・牧草については年間 生産計画による効率化	・稲わらについては、 中長期的な取引を視 野にいたれた地権者と の意見交換会の開催 等 ・牧草については、効 率的生産を図るための 機器等の整備	稲わら 60ha トウモロコシ10ha ソルゴー4ha スーダン9ha エン麦20ha イタリアン30ha	H18登録

都道府 県名	市町村名 (取組場所)	実施者	17年度(実績)	18年度				19年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評 価 ・ 課 題	今後の対応		
沖縄県	粟国村 (粟国島)	粟国村長、 粟国村畜産 農家	・10月に農家、役場、県 が連携協力し、簡易放 牧のための講習会及び 現地検討会を開催し、 11月から12月の2ヶ月 間、電牧の実践放牧を 実施した。(期間限定)	-	・電気牧柵を購入し、設 置、電牧による輪換放 牧を開始。	-	-	-	・粟国村にお ける電牧活用 は長いスパン をもって取り組 む予定であ る。
	伊江村 (伊江島)	沖縄県農業 協同組合	-	・現在、飼料自給率0% の子牛及び肥育牛用T MRを自給飼料を活用 したTMR(自給TMR) を供給し、飼料自給率 10%の向上を図る。 ・自給飼料活用型TMR を高品質なものに調製 するため、年3回のTM R品質向上検討会を開 催。検討会では採食 量、体重、飼料・血液分 析に基づいた飼料を設 計し、その検証を行う。	・TMRを高品質なもの に調製するため、7月2 1日にTMR品質向上検 討会を開催。飼料分析 に基づいた飼料を設計 し、TMR飼料成分検討 会を実施。2月に血液 性状、採食量、増体量 により検証を行う予定。 ・TMRの供給は計画段 階で38戸であったが、 現段階ではTMRの需 要が増し70戸に増加。	・ほとんどの農家がTM Rを利用したことがな かったが、TMR供給の 取り組みによってTMR の理解者と利用者が増 えた。 ・分離給与に比べて、T MRを採食した子牛の 発育が良くなっている。 ・現段階では自給飼料 を活用したTMRが供給 されていない。飼料自 給率向上が図られてい ない。	・TMRに自給粗飼料を 組み込み、早急に自給 飼料活用型TMRが供 給できるよう取り組む。	・飼料自給率10%の向 上を図る。	H17年度
	伊是名村 (伊是名島)	JAおきなわ	-	-	-	-	-	・さとうきび梢頭部利用 を検討する。	H18登録